調査結果報告

1. なぜ10年トランジション調査か
2. 高校2年生から大学1年生にかけて生徒はどう成長したか

溝上　慎一
（京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科）

http://smizok.net/
E-mail　mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

CONTENTS

①大学生調査･トランジション調査の前史
②1時点目調査の成果
③2時点目調査の成果
④1時点目（生徒タイプ）との関連

CONTENTS

①大学生調査･トランジション調査の前史
②1時点目調査の成果
③2時点目調査の成果
④1時点目（生徒タイプ）との関連

*

古くから「キャリア形成と学業の架橋」をテーマに～隔世の感

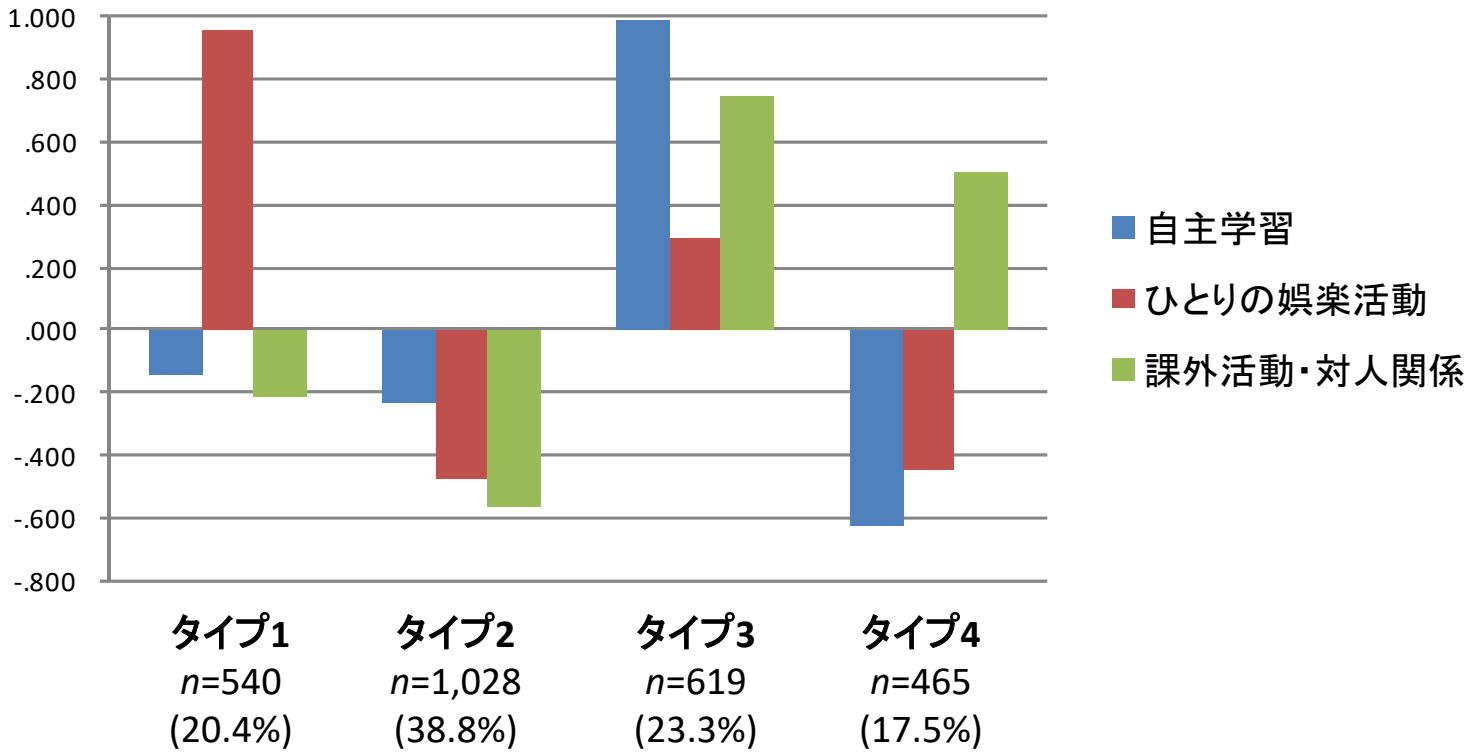
京都大学・電通育英会主催『大学生のキャリア意識調査』（Since 2007）

＊現在東京大学も共催

←学生の学びとキャリア形成をテーマに・・・

『大学生研究フォーラム』（Since 2008）

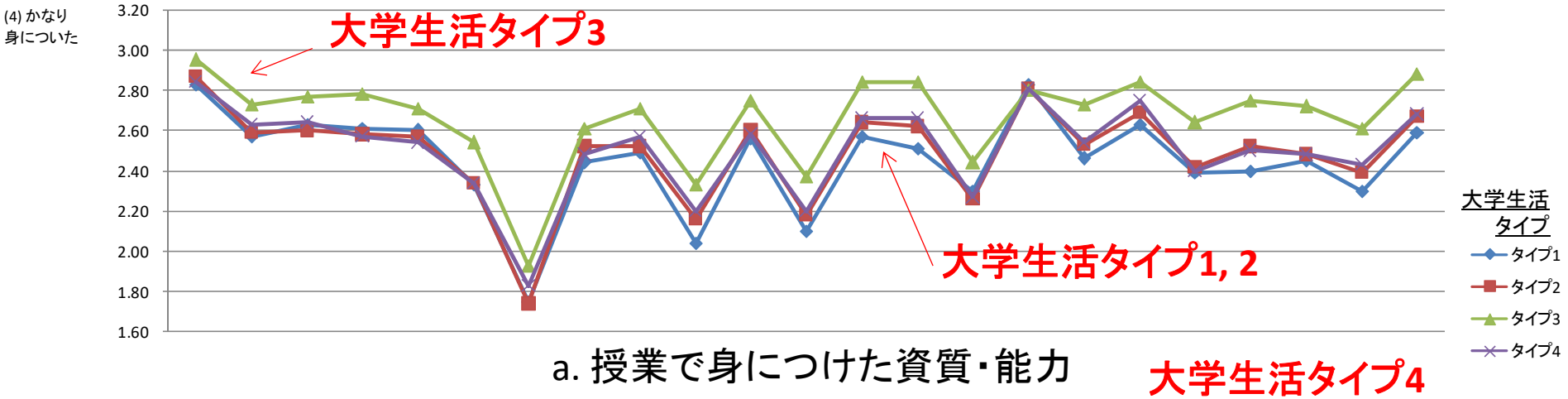
大学生活タイプ（一週間の過ごし方）の割合



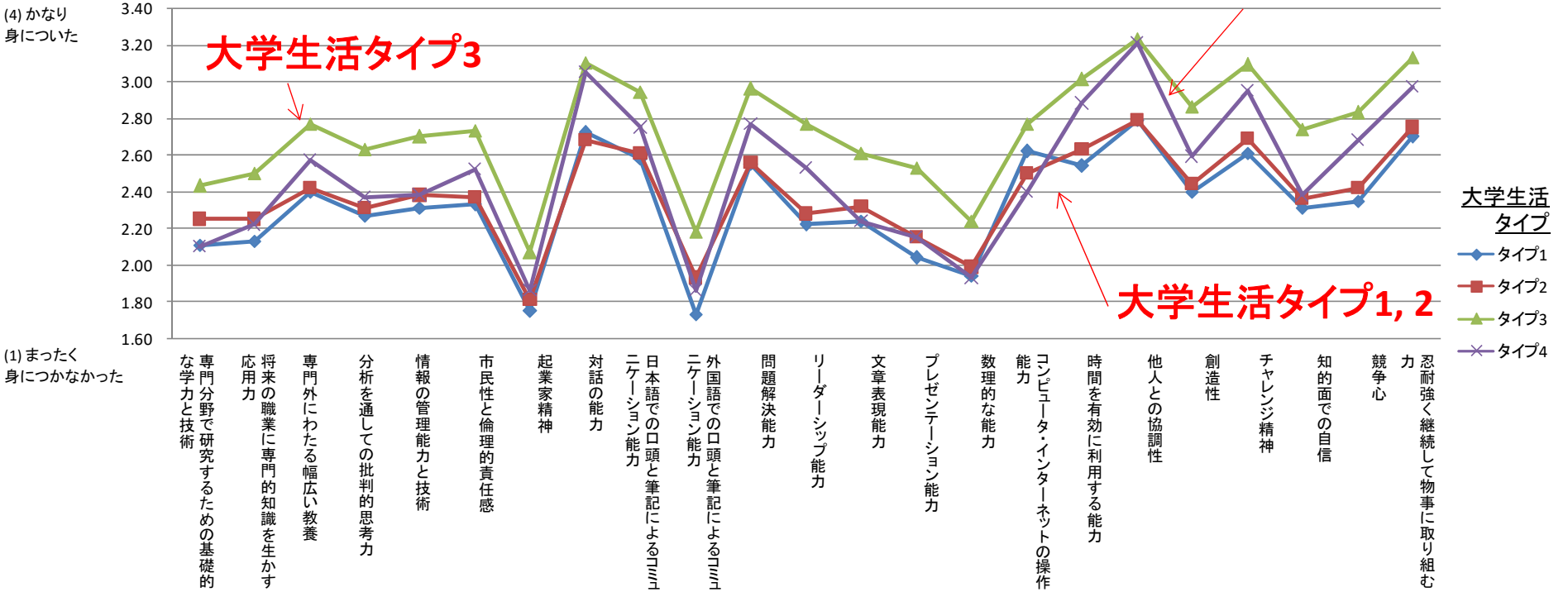
59.2%の学生（タイプ1＋タイプ2）は課外活動・対人関係が弱い

Reference:
保田江美・溝上慎一 (2014). 初期キャリア以降の探究－「大学時代のキャリア見通し」と「企業におけるキャリアとパフォーマンス」を中心に 中原淳・溝上慎一編 活躍する組織人の探究－大学から企業へのトランジション－ 東京大学出版会 pp.139-173.

大学生活タイプ×資質・能力



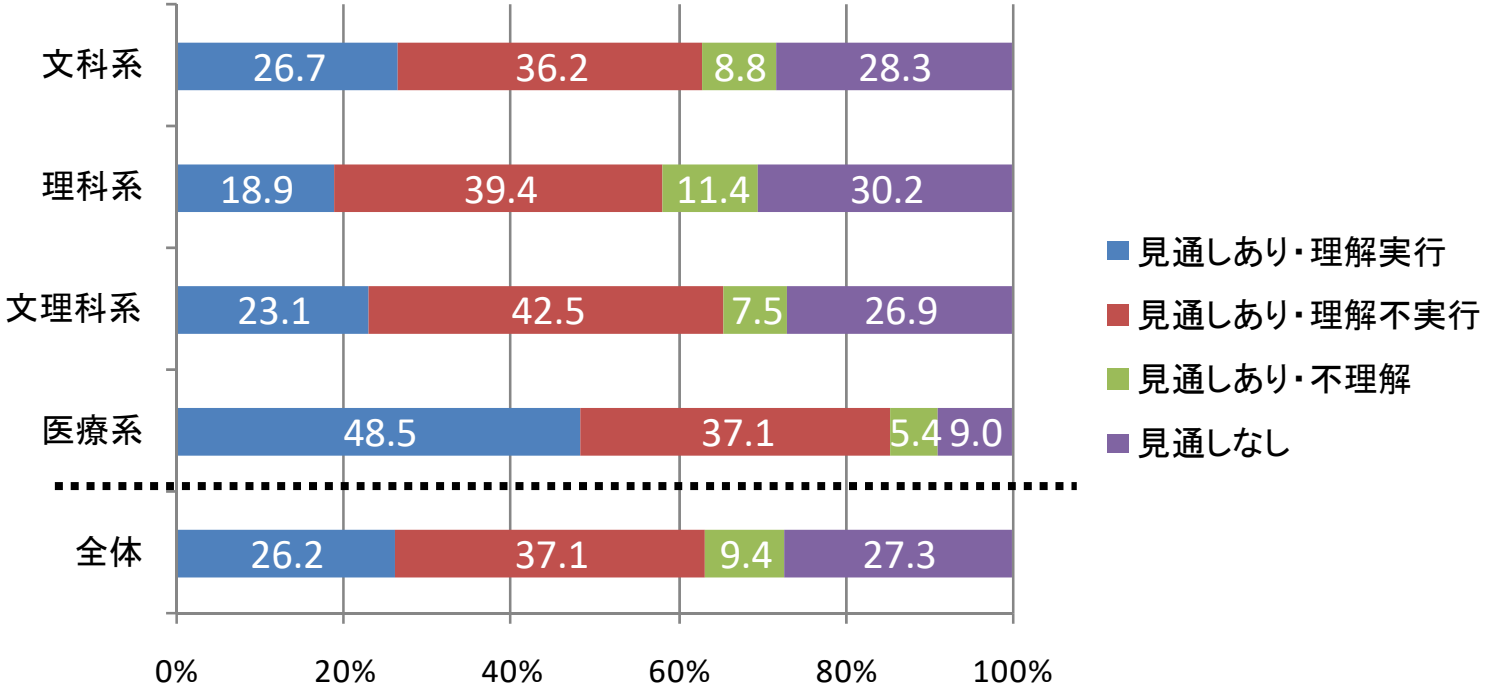
a. 授業で身につけた資質・能力



b. 授業外で身につけた資質・能力

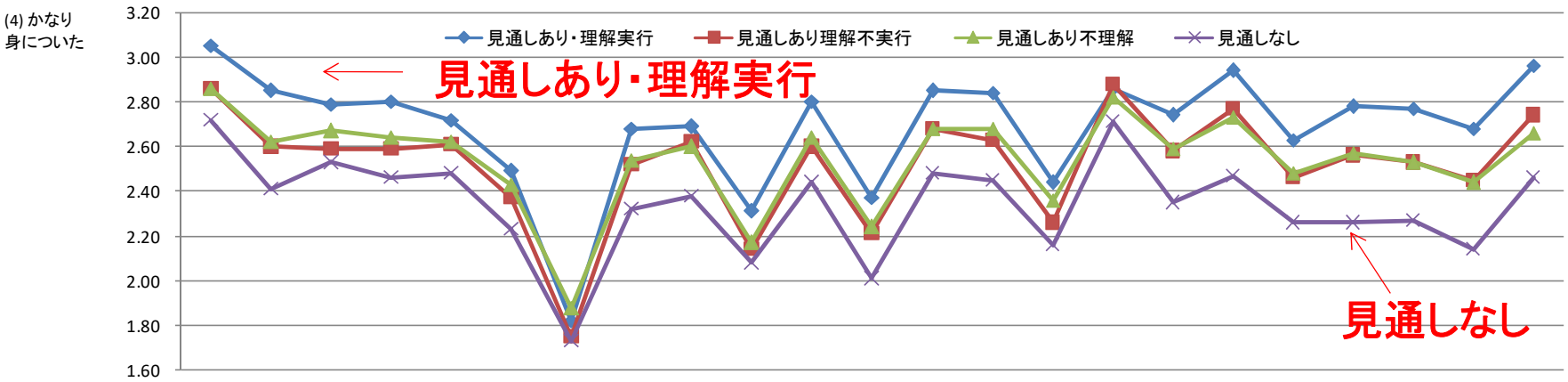
二つのライフ（Future Life+Present LIfe）

二つのライフ（将来の見通しと理解実行）

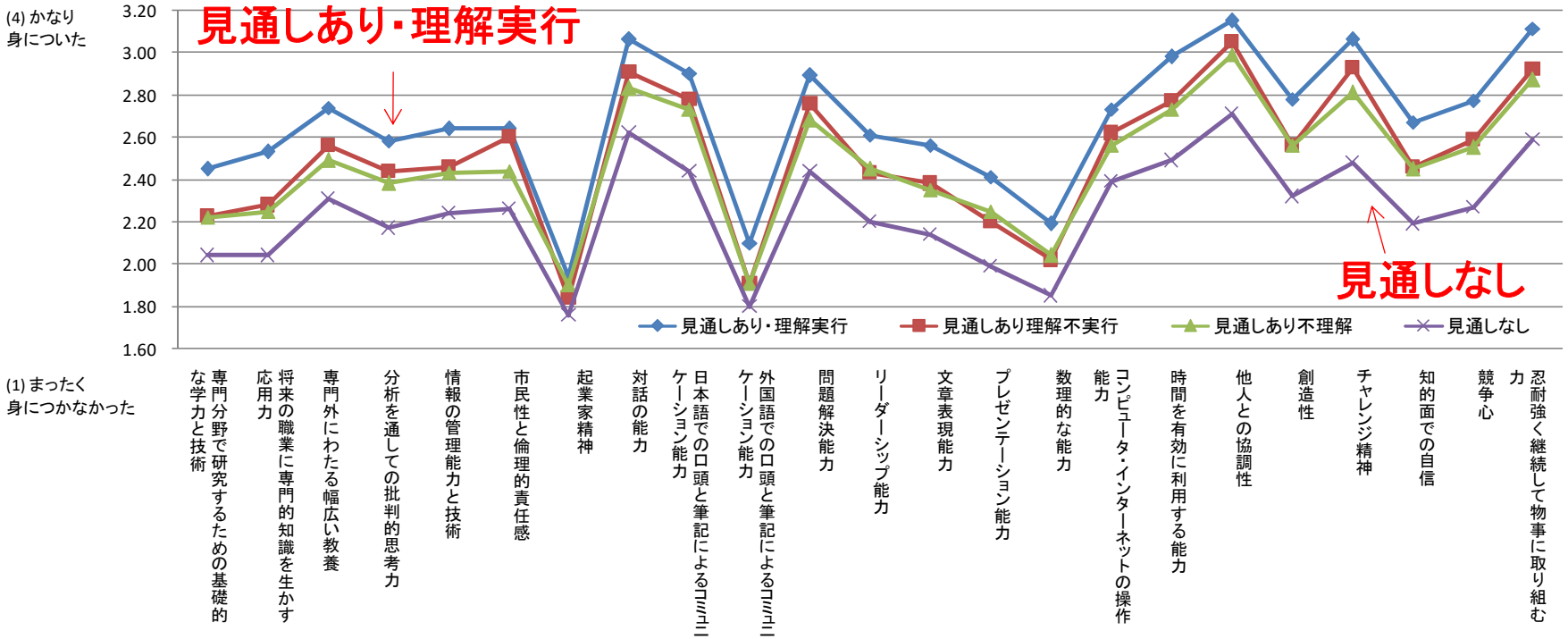


大半の学生は将来と日常が接続していない

二つのライフ×資質・能力



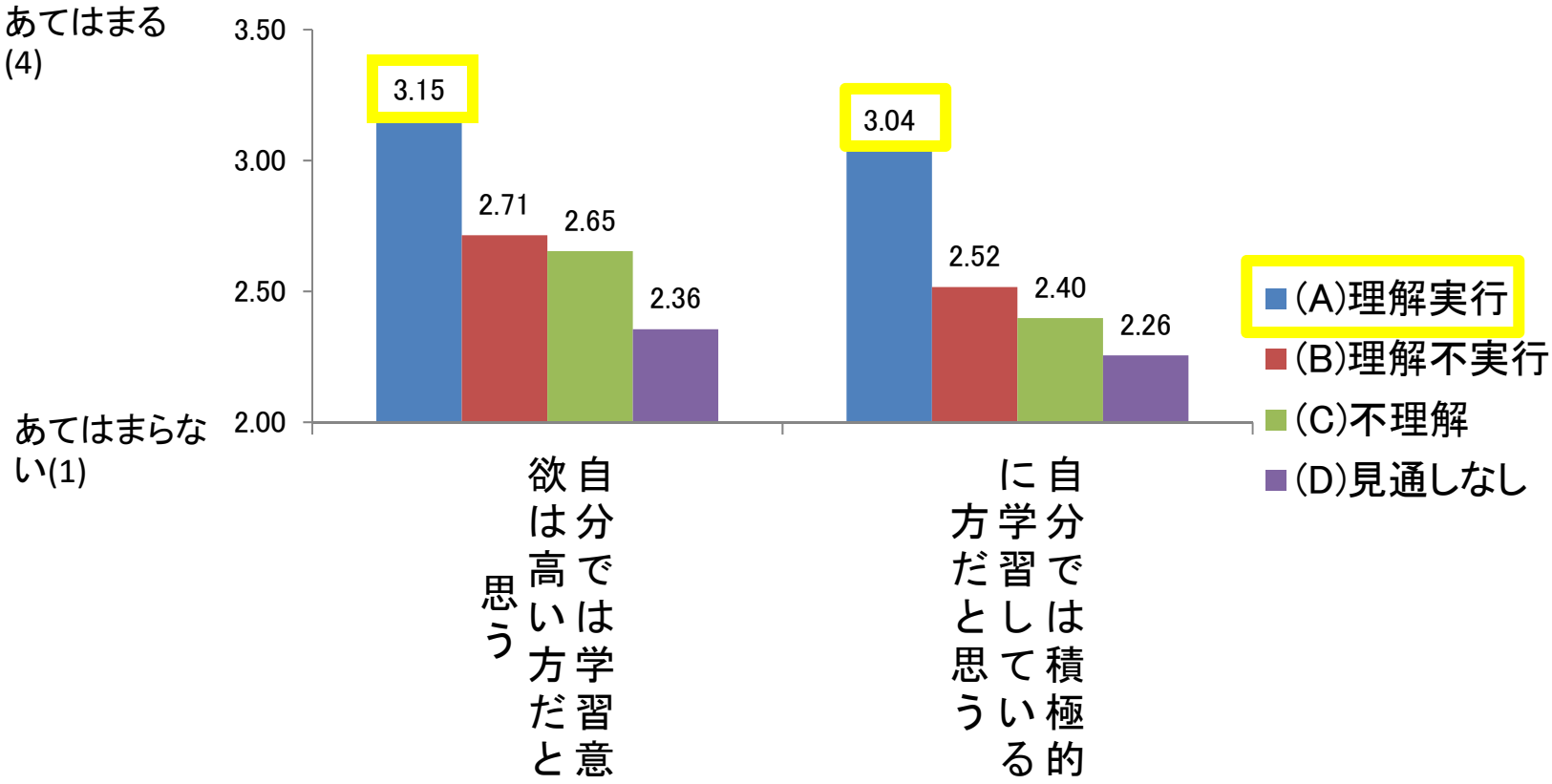
a. 授業で身につけた資質・能力



b. 授業外で身につけた資質・能力

二つのライフは学習動機に影響を及ぼす

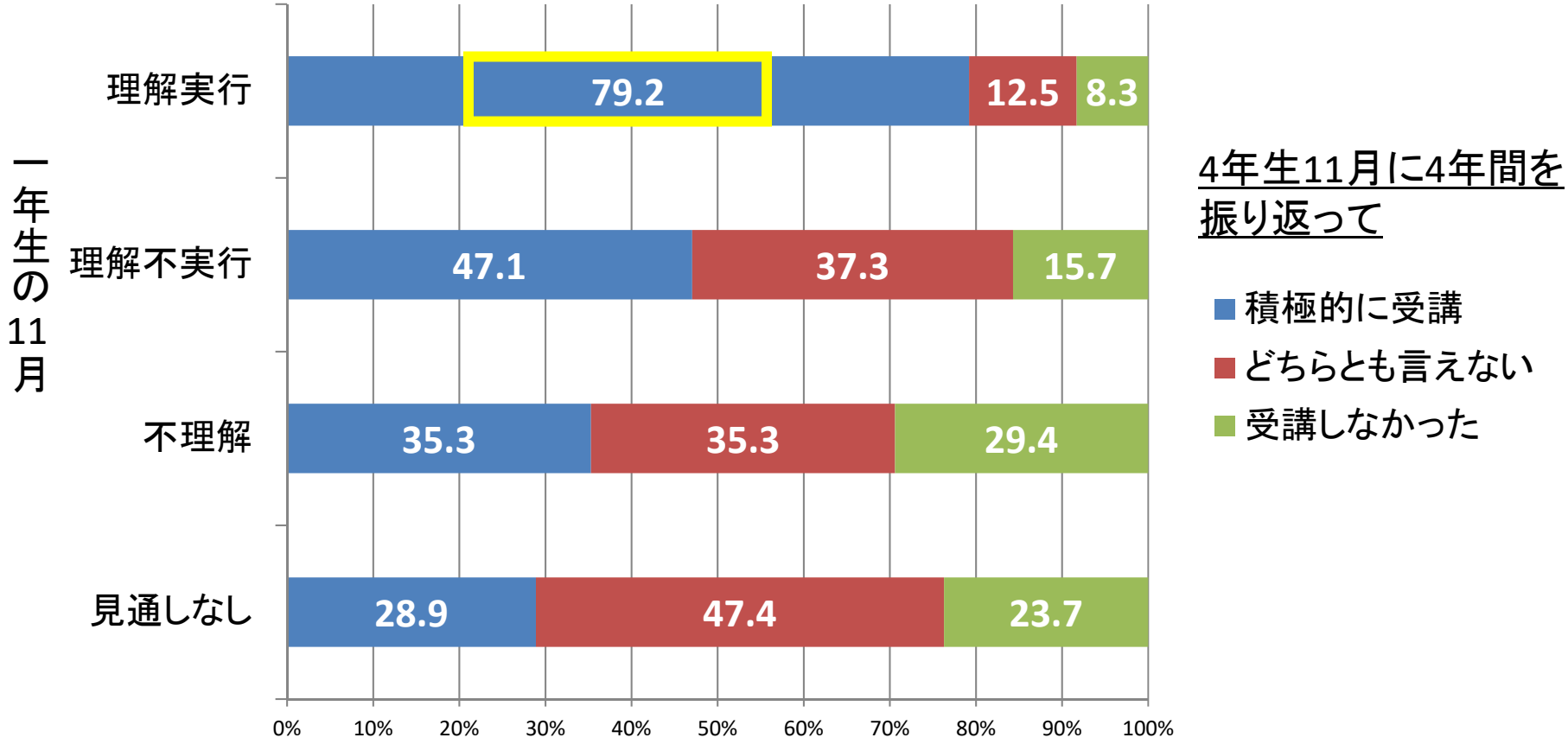
（『大学生のキャリア意識調査2007』）



* 一要因分散分析の結果、「授業学習」「授業外学習」「自主学習」すべてにおいて1%水準以上の有意差が見られた（順に、F (3, 1830)=4.01, p<.01、F (3, 1830)=15.60, p<.001、F (3, 1830)=62.32, p<.001）。多重比較の結果、「授業学習」（C>D）、「授業外学習」（A>B, C>D）、「自主学習」（A>B, C>D）であった。

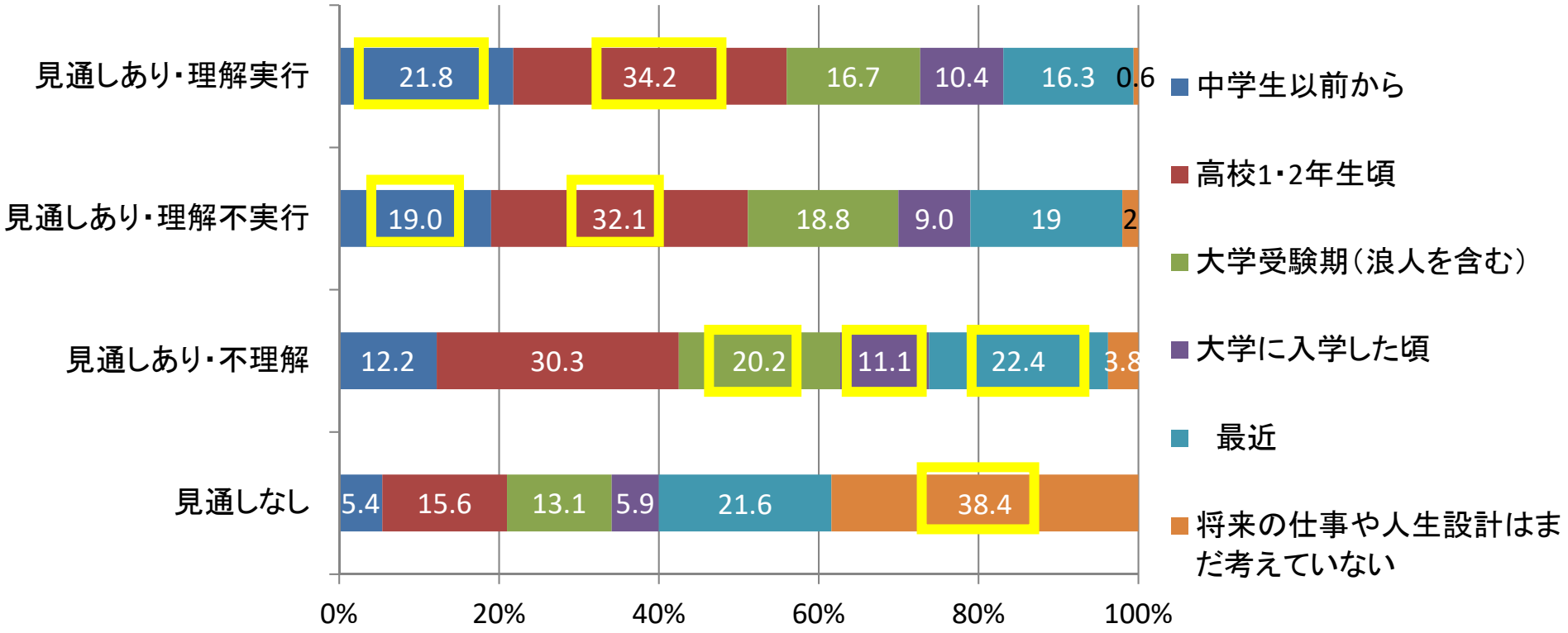
二つのライフとアクティブラーニング型授業への参加

（『大学生のキャリア意識調査2010』）



いつから将来の見通しを考えていた？

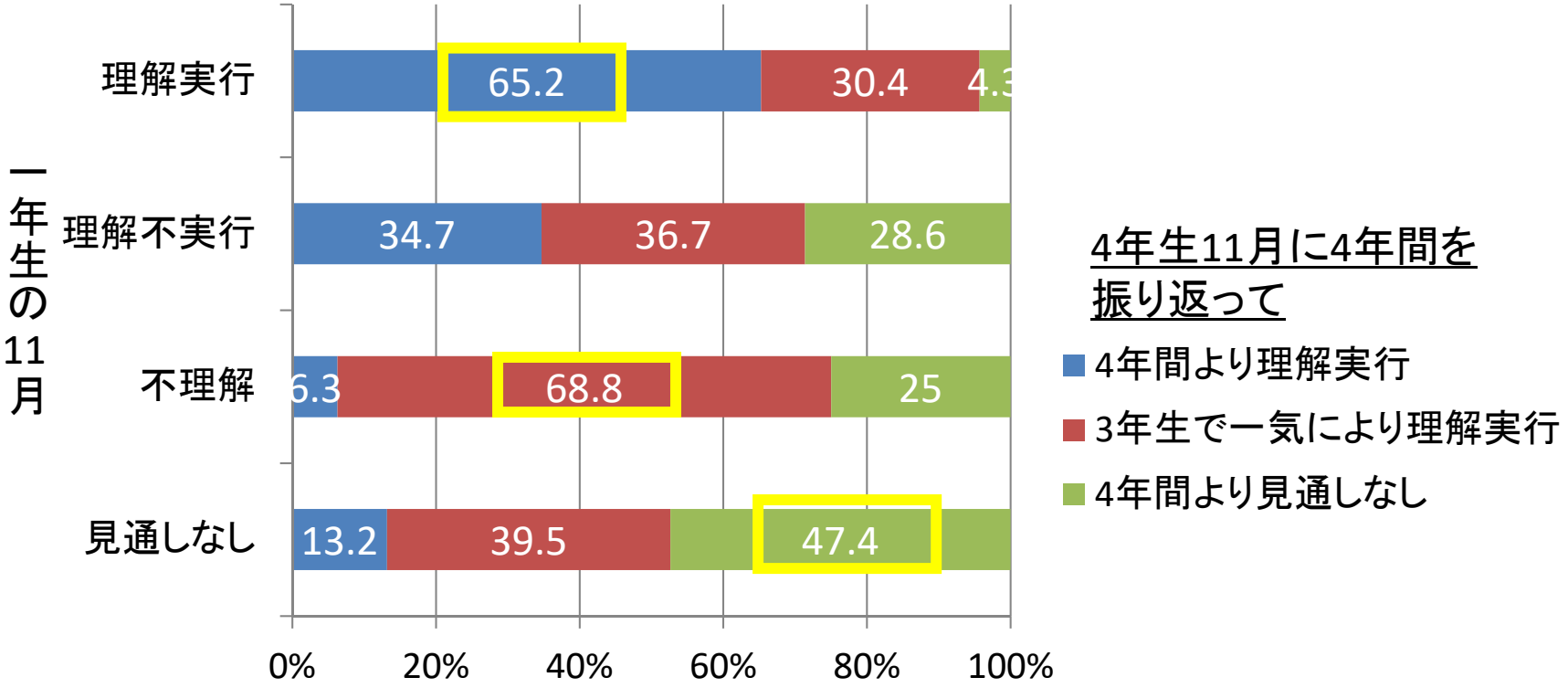
（『大学生のキャリア意識調査2010』）



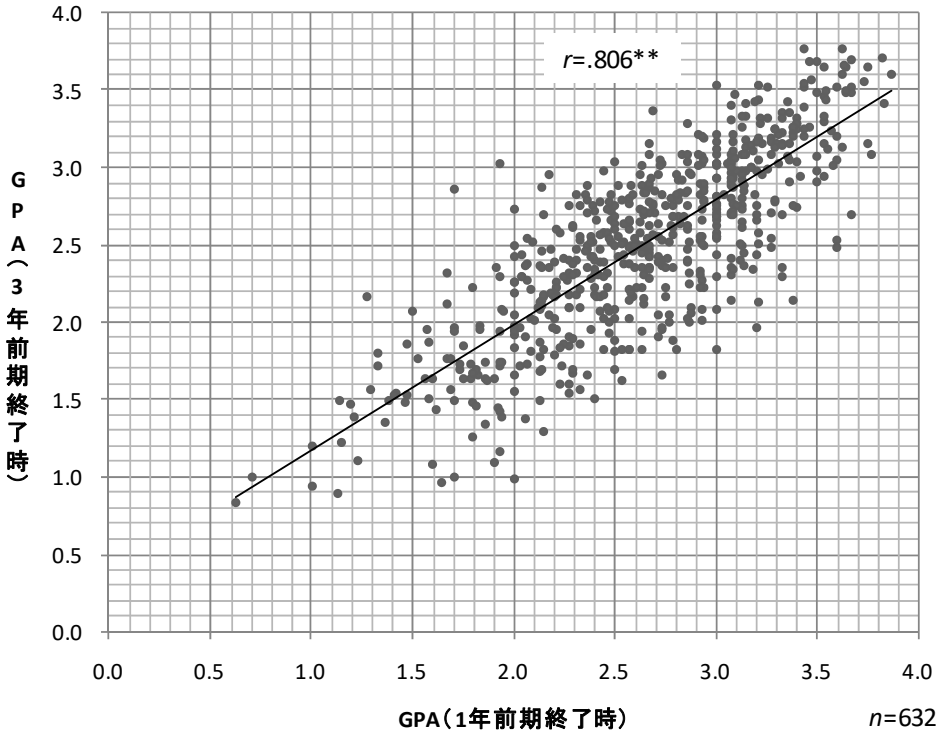
(*) χ^2検定の結果、0.1%水準で有意差あり（χ^2 (15)=744.246, p<.001）

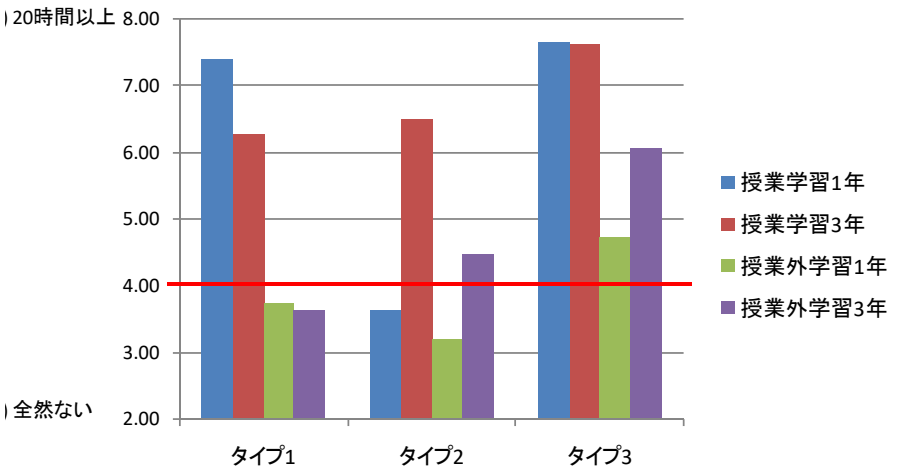
「理解実行」は見通しを中高生から考えている

1年生が4年生になってどうなっている？（医療系は除く）



大阪府立大学の事例





	タイプ1	タイプ2	タイプ3	合計
工学部	166 (61.3)	29 (10.7)	76 (28.0)	271 (100.0)
生命環境科学部(獣医学科以外)	48 (78.7)	6 (9.8)	7 (11.5)	61 (100.0)
生命環境科学部(獣医学科)	7 (28.0)	5 (20.0)	13 (52.0)	25 (100.0)
理学部	40 (55.6)	12 (16.7)	20 (27.8)	72 (100.0)
経済学部	43 (79.6)	0 (0.0)	11 (20.4)	54 (100.0)
人間社会学部	49 (96.1)	0 (0.0)	2 (3.9)	51 (100.0)
看護学部	12 (57.1)	0 (0.0)	9 (42.9)	21 (100.0)
総合リハビリテーション学部	34 (63.0)	0 (0.0)	20 (37.0)	54 (100.0)
全体	399 (65.5)	52 (8.5)	158 (25.9)	609 (100.0)

・初年次ゼミナール（2012年度～）への影響
・学習時間や学習行動等さまざまな変数とGPAとの関連のなさ
　☞「授業を欠席しない」「居眠りしない」とは相関が見られる
　☞GPAが学習目標に直結していない

1

Reference:
溝上慎一「経験や勘からデータ重視へと教学改善を跳躍させるIR」（進研アド『Between』2013年10-11月号）

『大学生のキャリア意識調査』（Since2007）より明らかとなったこと（作業＆仮説）

- 学生の学びと成長（student learning and development）の「成長指標」としての(昨今施策で言うところの）資質・能力の設定

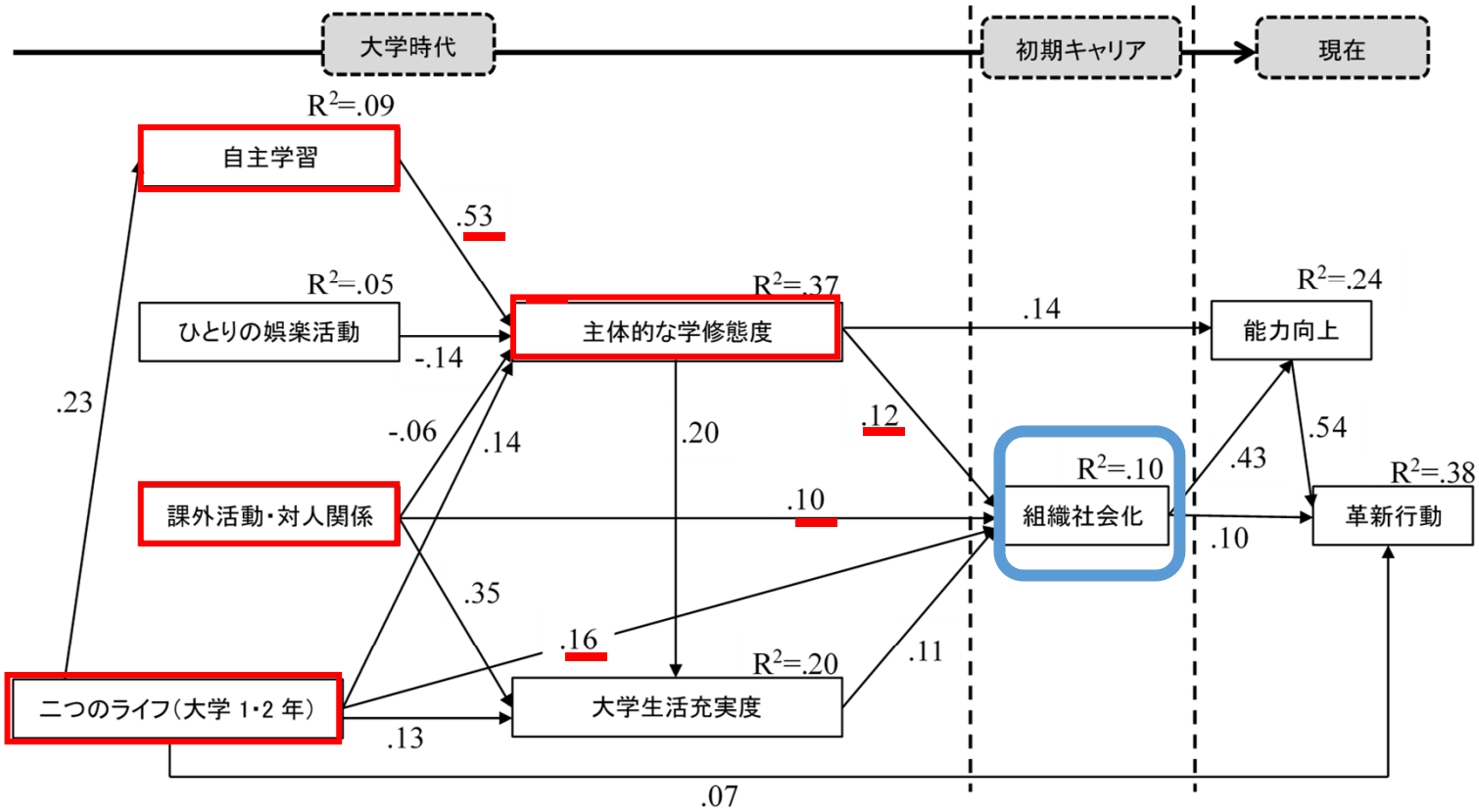
- 授業外学習と対人関係・コミュニケーションが成長の要因として
- キャリア形成（二つのライフ）が学習にも影響を及ぼし、かつ成長の要因としても

- 学び成長する大学生のキャリア形成は中学あるいは高校1・2年から始まっている？
- 二つのライフは大学4年間で変わりにくい？

Reference:
保田江美・溝上慎一 (2014). 初期キャリア以降の探究－「大学時代のキャリア見通し」と「企業におけるキャリアとパフォーマンス」を中心に　中原淳・溝上慎一編　活躍する組織人の探究－大学から企業へのトランジション－　東京大学出版会　pp.139-173.

社会人調査（25～39歳対象）：学校（高校・大学）から職業へのトランジション調査

構造方程式モデル



GFI=.947 , AGFI=.898, RMSEA=.087, $\chi^2(55)=1192.568$, p.<.001
パス係数はすべて p<.001 であったため、それを示す記号の記載は省略
「年齢」「性別」「出身大学偏差値」「出身大学（文理）」「大学での成績」で統制、
統制変数および共分散、誤差変数の記載は省略

・ふり返り調査の限界はあるが、
ほぼ仮説通りの結果
・キャリア、学習、対人関係の重要性

3

Reference:
保田江美・溝上慎一 (2014). 初期キャリア以降の探究－「大学時代のキャリア見通し」と「企業におけるキャリアとパフォーマンス」を中心に 中原淳・溝上慎一編 活躍する組織人の探究－大学から企業へのトランジション－ 東京大学出版会 pp.139-173.

CONTENTS

①大学生調査･トランジション調査の前史
②1時点目調査の成果
③2時点目調査の成果
④1時点目（生徒タイプ）との関連

*

「学校と社会をつなぐ調査」(Since 2013年)
(通称:10年トランジション調査)

共催:京都大学高等教育研究開発推進センター
河合塾教育イノベーション本部

- **目的**:高校2年生から約10年の追跡調査をおこない、学校での学習や日常生活の過ごし方が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生の過ごし方にどのような影響を及ぼすかを検討する。

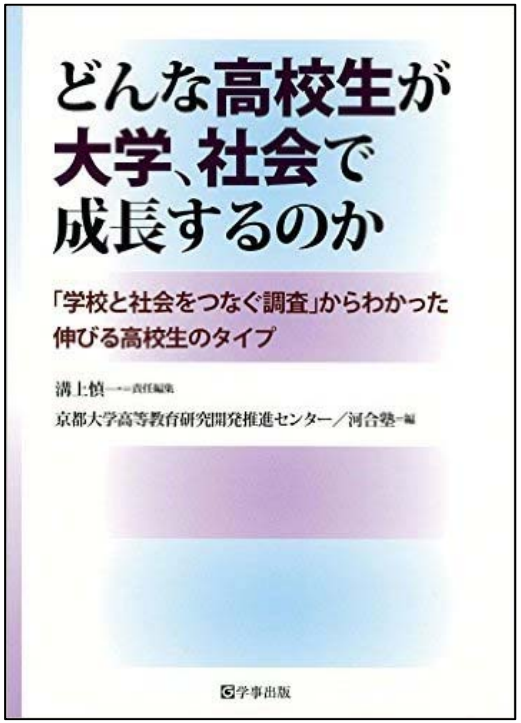
- **実施概要**:大学進学率約7-8割以上の高校(河合塾の資料より全国約1,500校の生徒を対象)を調査対象の母集団として設定し、全国都道府県の教育委員会、高校に協力を要請して実施。教室での配布、インターネット、郵送等で、165,687名の高校生に調査票への回答を求め、結果、45,311名が回答(27.6%回答率)。

- **調査実施の流れ**:

（定員250名）

通称「10年トランジション調査」2時点目成果報告会

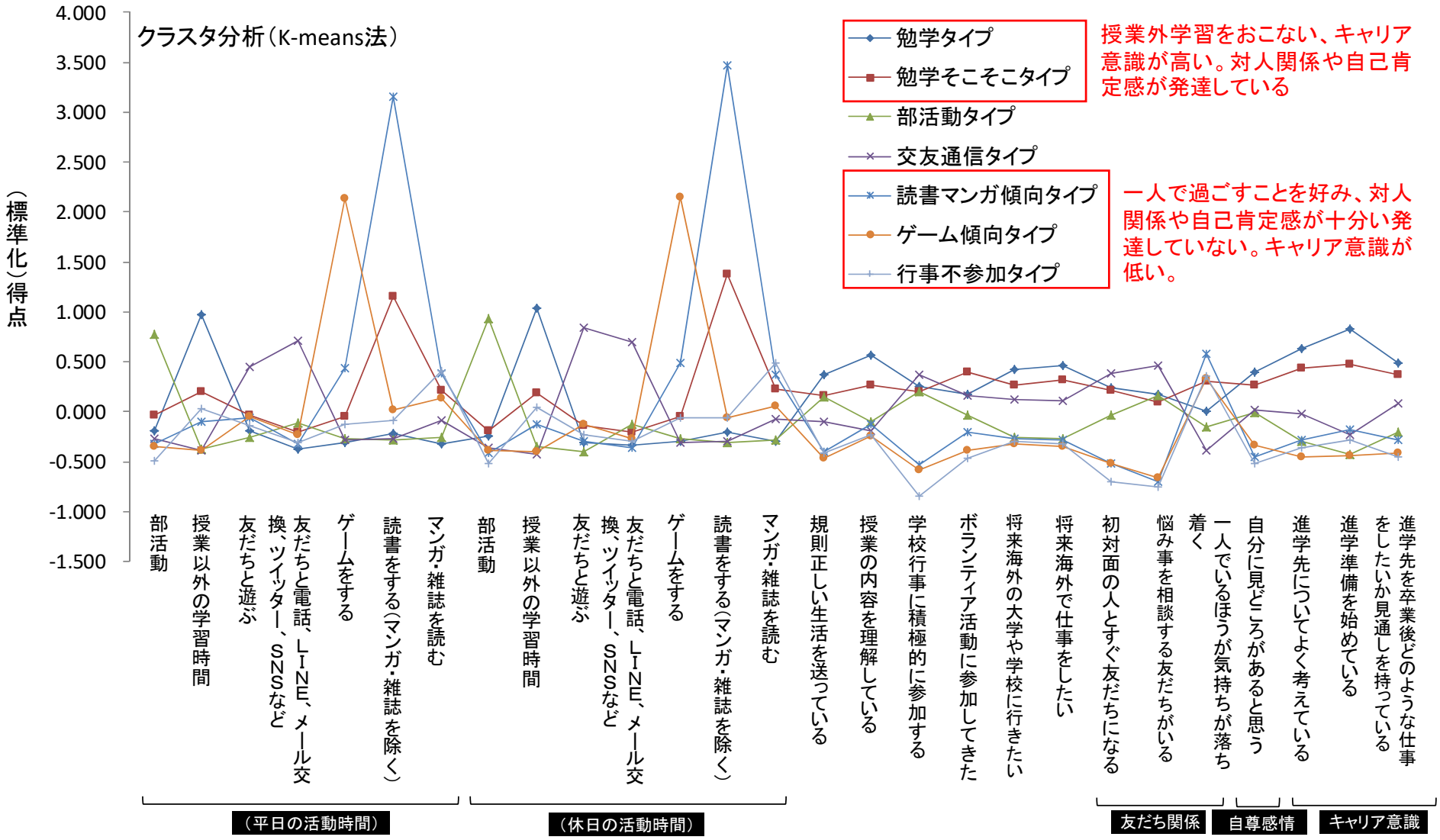
京都大学・河合塾主催　2016年9月24日（土）＠キャンパスプラザ京都



溝上慎一 (責任編集) 京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾 (編) (2015). どんな高校生が大学、社会で成長するのか－「学校と社会をつなぐ調査」からわかった伸びる高校生のタイプ－　学事出版

京都大学でのウェブサイト
http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/trans/

7つの生徒タイプが多様な高校生の見方を提供する



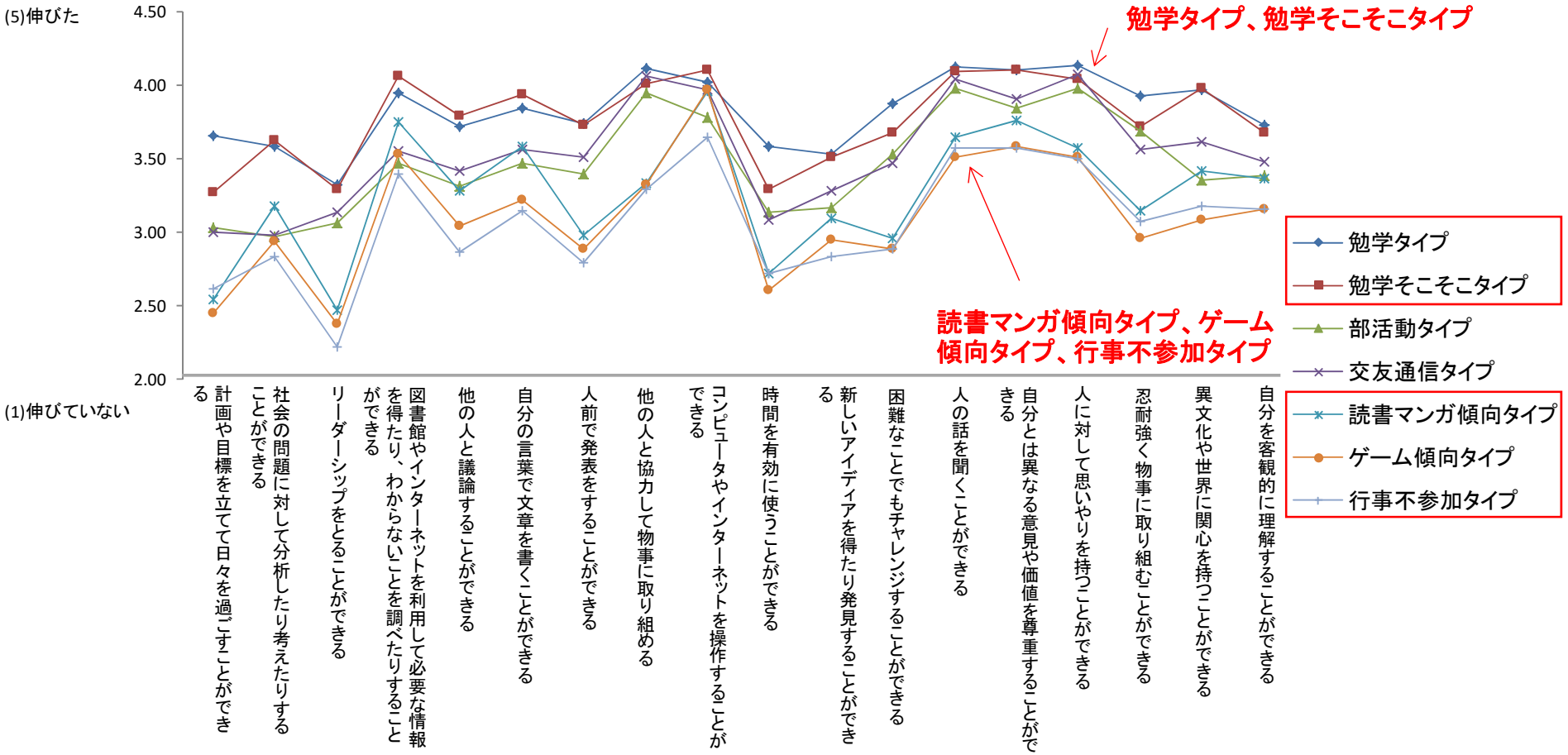
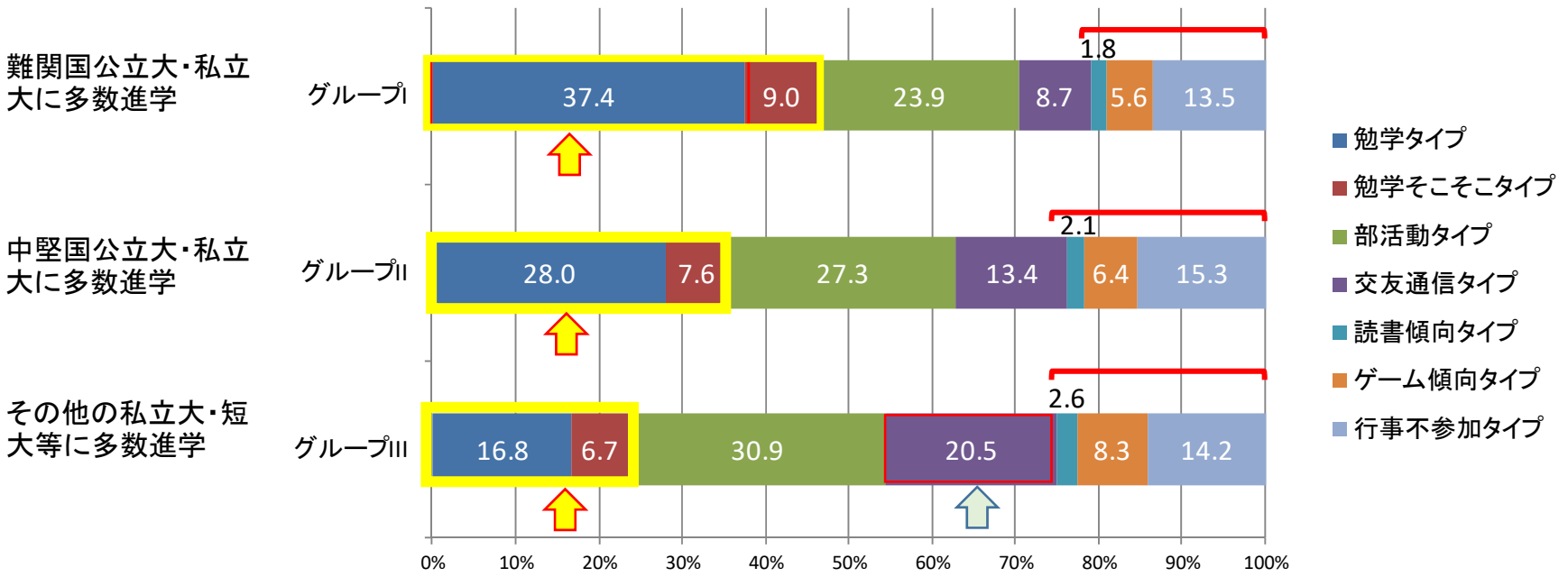


図　生徒タイプと資質・能力との関連

・「他の人と議論することができる」「人前で発表することができる」は、対人関係が得意くらいでは身につかない。学習（アクティブラーニング）との深い関連性。
・「異文化や世界に関心を持つ」も学習と関連。

大学進学グループとの関連



「グループ分類は、河合塾の調査による」

・難関大学への進学実績が高いグループで「勉学タイプ」が多く、進学実績が比較的高くないグループの2倍以上の割合を有する。他方で、「交友通信タイプ」は、進学実績が比較的高くないグループで多く、進学実績が高いグループの2倍以上の割合を有する。「行事不参加タイプ」は、進学実績に関係なく、どのグループにも10～15%はいる。
・グループ1でも、部活動タイプ～行事不参加タイプが過半数いる。彼らが受験勉強を短期間で仕上げ難関大学へ進学する場合、彼らの大学生になってからの技能・態度やキャリア意識は大丈夫か。

CONTENTS

①大学生調査･トランジション調査の前史
②1時点目調査の成果
③2時点目調査の成果
④1時点目（生徒タイプ）との関連

*

「学校と社会をつなぐ調査」2時点目調査データ

- **1時点目調査（高校2年時：T1）：**

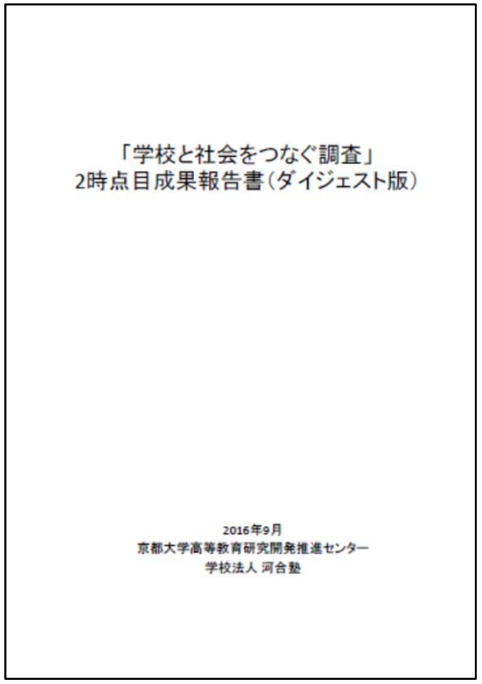
2013年10～12月実施。全国計378校の高校2年生45,311名（男性21,238名、女性22,588名、不明1,485名）が教室で、あるいはインターネットで調査票に回答。メールアドレスをウェブ上で登録し、継続調査を承諾した者16,829名（回答者の37.1%）が、以後の継続調査の対象者となる。

- **1.5時点目調査（大学1年時：T1.5）：**

2015年4月末にウェブ上で実施。7,420名（男性2,951名、女性4,469名。継続調査を承諾した者の44.1%）が回答。調査内容は、1時点目で尋ねられなかった項目（高校在籍時の居住都市、親の職業や学歴、年収等の社会階層情報）や卒業後の進路・就職状況など。

- **2時点目調査（大学1年時：T2）：**

2015年11-12月にウェブ上で実施。5,939名（継続調査を承諾した者の35.3%）が回答。そのうち、4年制（あるいは6年制）大学へ進学した者4,751名を本分析の対象とした。ただし、同一数字を続けて回答するなどいい加減だと見なされる回答者74名を除き、4,677名（男性1,792名、女性2,850名、回答拒否等その他35名）を分析対象者とした。



『「学校と社会をつなぐ調査」2時点目成果報告書（ダイジェスト版）』（2016年9月）

【分析1】T1, T1.5, T2のどの変数が資質・能力(T2)を説明しているか？

他者理解力(T2)

説明変数	モデル	A	A+B	A+B+C	A+B+C+D
【A：属性要因（個人・家庭・高校）】					
ジェンダー(T1) (1:男 2:女)		.10 **	.07 **	.06 **	.06 **
社会階層(T1.5) (1:低 2:中 3:高)		.00	.01	.01	.00
都市度(T1) (0:それ以外 1:三大都市圏)		-.02	-.01	.00	.00
中高一貫校(T1) (0:それ以外 1:中高一貫)		.01	.00	.00	.00
高校の大学進学程度(T1) (1:その他の私大・短大等に多数進学 2:中堅国公立大、私大に多数進学 3:難関国公立大・私大に多数進学)		.00	-.01	.00	.00
【B：個人的要因（高校2年時）】					
部活動時間(T1) (0.5時間単位)			.00	.00	-.01
授業以外の学習時間(T1) (0.5時間単位)			.00	.00	-.02
友だちと遊ぶ(T1) (0.5時間単位)			-.02	-.02	-.02
友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNSなど(T1) (0.5時間単位)			-.02	-.02	.00
ゲームをする(T1) (0.5時間単位)			.03	.03	.03
読書をする(マンガ・雑誌を除く)(T1) (0.5時間単位)			.00	.01	-.01
マンガ・雑誌を読む(T1) (0.5時間単位)			-.03	-.02	-.02
学校行事に積極的に参加する(T1) (1-4点)			.05 *	.04 *	.04 *
SSH経験(T1) (0:それ以外 1:SSH受講＆満足)			.02	.02	.01
自尊感情(T1) (1-4点)			.04 *	.05 *	.03
対人関係(T1) (1-2点)			.07 **	.06 **	.06 **
キャリア意識(T1) (1-4点)			.03	.03	-.01
他者理解力(T1) (1-5点)			.30 **	.30 **	.30 **
社会文化探究心(T1) (1-5点)			.05 *	.05 *	.04
計画実行力(T1) (1-5点)			.02	.02	-.01
コミュニケーション・リーダーシップ力(T1) (1-5点)			.05 *	.05 *	.03
【C：属性要因（大学入学時）】					
地域移動(T1.5) (0:移動なし 1:移動あり)				-.04 *	-.01
国公私立大学(T1.5) (0:私立大学 1:国公立大学)				-.01	.01
大学偏差値(T1.5) (2:49以下 3:50-59 4:60-64 5:65以上)				-.02	.00
学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)				.05 *	.07 **
学部学科（理科系ダミー）(T1.5)				-.01	-.01
学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)				.03	.02
学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)				.02	.01
学部学科（その他ダミー）(T1.5)				.01	.01
【D：個人的要因（大学1年時）】					
授業や実験に参加する(T2) (1時間単位)					.00
授業に関する勉強をする(T2) (1時間単位)					.03
自主的な勉強をする(T2) (1時間単位)					-.02
友だちと遊ぶ(T2) (1時間単位)					.03
クラブサークル活動をする(T2) (1時間単位)					.01
コンパや懇親会に参加する(T2) (1時間単位)					.02
アルバイトをする(T2) (1時間単位)					-.03
ボランティアなどをする(T2) (1時間単位)					.00
テレビを見る(T2) (1時間単位)					-.04 *
電話、LINE、メール、SNSをする(T2) (1時間単位)					.02
インターネットサーフィンをする(T2) (1時間単位)					-.02
ゲームをする(T2) (1時間単位)					.02
勉強のための本を読む(T2) (1時間単位)					.01
娯楽のための本（マンガ雑誌を除く）を読む(T2) (1時間単位)					-.03
マンガや雑誌を読む(T2) (1時間単位)					.00
新聞を読む(T2) (1時間単位)					.00
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					-.02
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					.18 **
二つのライフ(T2) (1-3点)					.05 **
	R^2	.010	.184	.189	.227
	ΔR^2	.010 **	.174 **	.005	.038 **

* $p<.05$ ** $p<.01$

社会文化探究心(T2)

説明変数	モデル	A	A+B	A+B+C	A+B+C+D
【A：属性要因（個人・家庭・高校）】					
ジェンダー(T1) (1:男 2:女)		.01	.01	-.02	.01
社会階層(T1.5) (1:低 2:中 3:高)		.01	.01	.02	.01
都市度(T1) (0:それ以外 1:三大都市圏)		.00	-.01	-.01	-.01
中高一貫校(T1) (0:それ以外 1:中高一貫)		.00	-.04 *	-.02	.00
高校の大学進学程度(T1) (1:その他の私大・短大等に多数進学 2:中堅国公立大、私大に多数進学 3:難関国公立大・私大に多数進学)		-.02	-.04 *	.00	.00
【B：個人的要因（高校2年時）】					
部活動時間(T1) (0.5時間単位)			.01	.01	.01
授業以外の学習時間(T1) (0.5時間単位)			.03	.05 *	.01
友だちと遊ぶ(T1) (0.5時間単位)			-.01	-.01	.00
友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNSなど(T1) (0.5時間単位)			-.02	-.03	.03
ゲームをする(T1) (0.5時間単位)			.03	.03	.03
読書をする(マンガ・雑誌を除く)(T1) (0.5時間単位)			.06 **	.05 **	.02
マンガ・雑誌を読む(T1) (0.5時間単位)			-.01	-.01	-.01
学校行事に積極的に参加する(T1) (1-4点)			-.01	-.01	.01
SSH経験(T1) (0:それ以外 1:SSH受講＆満足)			-.03	-.01	-.03
自尊感情(T1) (1-4点)			.07 **	.09 **	.05
対人関係(T1) (1-2点)			.03	.02	.01
キャリア意識(T1) (1-4点)			.07 **	.06 **	.02
他者理解力(T1) (1-5点)			.05 *	.04	.04 *
社会文化探究心(T1) (1-5点)			.29 **	.29 **	.25 **
計画実行力(T1) (1-5点)			.01	.02	-.02
コミュニケーション・リーダーシップ力(T1) (1-5点)			.06 **	.06 *	.04
【C：属性要因（大学入学時）】					
地域移動(T1.5) (0:移動なし 1:移動あり)				.00	-.01
国公私立大学(T1.5) (0:私立大学 1:国公立大学)				-.04 *	.00
大学偏差値(T1.5) (2:49以下 3:50-59 4:60-64 5:65以上)				-.06 **	-.03
学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)				-.01	.01
学部学科（理科系ダミー）(T1.5)				-.08 **	-.07 **
学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)				-.02	-.02
学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)				-.05 **	-.06 **
学部学科（その他ダミー）(T1.5)				-.03	-.04
【D：個人的要因（大学1年時）】					
授業や実験に参加する(T2) (1時間単位)					.03
授業に関する勉強をする(T2) (1時間単位)					.03
自主的な勉強をする(T2) (1時間単位)					.02
友だちと遊ぶ(T2) (1時間単位)					.01
クラブサークル活動をする(T2) (1時間単位)					-.04 *
コンパや懇親会に参加する(T2) (1時間単位)					.05 **
アルバイトをする(T2) (1時間単位)					.01
ボランティアなどをする(T2) (1時間単位)					.04 **
テレビを見る(T2) (1時間単位)					.03
電話、LINE、メール、SNSをする(T2) (1時間単位)					-.04 *
インターネットサーフィンをする(T2) (1時間単位)					.01
ゲームをする(T2) (1時間単位)					.03
勉強のための本を読む(T2) (1時間単位)					.09 **
娯楽のための本（マンガ雑誌を除く）を読む(T2) (1時間単位)					.00
マンガや雑誌を読む(T2) (1時間単位)					.00
新聞を読む(T2) (1時間単位)					.00
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					-.01
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					.25 **
二つのライフ（T2) (1-3点)					.08 **
	R^2	.000	.186	.197	.309
	ΔR^2	.000	.185 **	.011 **	.112 **

* $p<.05$ ** $p<.01$

計画実行力(T2)

説明変数	モデル	A	A+B	A+B+C	A+B+C+D
【A：属性要因（個人・家庭・高校）】					
ジェンダー(T1) (1:男 2:女)		.07 **	.04 *	.04	.04 *
社会階層(T1.5) (1:低 2:中 3:高)		-.02	-.03	-.02	-.03 *
都市度(T1) (0:それ以外 1:三大都市圏)		.00	.01	.01	.00
中高一貫校(T1) (0:それ以外 1:中高一貫)		.01	-.02	.01	.01
高校の大学進学程度(T1) (1:その他の私大・短大等に多数進学 2:中堅国公立大、私大に多数進学 3:難関国公立大・私大に多数進学)		.01	-.02	.02	.02
【B：個人的要因（高校2年時）】					
部活動時間(T1) (0.5時間単位)			.04	.04	.01
授業以外の学習時間(T1) (0.5時間単位)			.00	.01	-.02
友だちと遊ぶ(T1) (0.5時間単位)			.01	.01	.01
友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNSなど(T1) (0.5時間単位)			-.04	-.04 *	.02
ゲームをする(T1) (0.5時間単位)			.00	.00	.02
読書をする(マンガ・雑誌を除く)(T1) (0.5時間単位)			.02	.02	.01
マンガ・雑誌を読む(T1) (0.5時間単位)			-.01	-.01	.00
学校行事に積極的に参加する(T1) (1-4点)			.03	.02	.01
SSH経験(T1) (0:それ以外 1:SSH受講＆満足)			.01	.01	-.01
自尊感情(T1) (1-4点)			.10 **	.11 **	.08 **
対人関係(T1) (1-2点)			.09 **	.08 **	.07 **
キャリア意識(T1) (1-4点)			.06 **	.05 **	-.03
他者理解力(T1) (1-5点)			.06 **	.05 *	.06 **
社会文化探究心(T1) (1-5点)			-.03	-.02	-.04 *
計画実行力(T1) (1-5点)			.28 **	.29 **	.24 **
コミュニケーション・リーダーシップ力(T1) (1-5点)			.04	.05 *	.01
【C：属性要因（大学入学時）】					
地域移動(T1.5) (0:移動なし 1:移動あり)				-.02	-.02
国公私立大学(T1.5) (0:私立大学 1:国公立大学)				-.06 **	-.03
大学偏差値(T1.5) (2:49以下 3:50-59 4:60-64 5:65以上)				-.09 **	-.07 **
学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)				.00	.04 *
学部学科（理科系ダミー）(T1.5)				.04	.04
学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)				.02	.01
学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)				.02	.01
学部学科（その他ダミー）(T1.5)				.03	.02
【D：個人的要因（大学1年時）】					
授業や実験に参加する(T2) (1時間単位)					.00
授業に関する勉強をする(T2) (1時間単位)					.05 **
自主的な勉強をする(T2) (1時間単位)					.03 *
友だちと遊ぶ(T2) (1時間単位)					.01
クラブサークル活動をする(T2) (1時間単位)					.08 **
コンパや懇親会に参加する(T2) (1時間単位)					.02
アルバイトをする(T2) (1時間単位)					.04 *
ボランティアなどをする(T2) (1時間単位)					.02
テレビを見る(T2) (1時間単位)					-.05 **
電話、LINE、メール、SNSをする(T2) (1時間単位)					-.02
インターネットサーフィンをする(T2) (1時間単位)					-.07 **
ゲームをする(T2) (1時間単位)					-.01
勉強のための本を読む(T2) (1時間単位)					.04 *
娯楽のための本（マンガ雑誌を除く）を読む(T2) (1時間単位)					.01
マンガや雑誌を読む(T2) (1時間単位)					.01
新聞を読む(T2) (1時間単位)					.01
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					.01
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					.29 **
二つのライフ（T2) (1-3点)					.15 **
	R^2	.005	.211	.222	.362
	ΔR^2	.005	.205 **	.012 **	.139 **

* $p<.05$ ** $p<.01$

コミュニケーション・リーダーシップ力(T2)

説明変数	モデル	A	A+B	A+B+C	A+B+C+D
【A：属性要因（個人・家庭・高校）】					
ジェンダー(T1) (1:男 2:女)		.07 **	.04 *	.04	.04 *
社会階層(T1.5) (1:低 2:中 3:高)		-.02	-.03	-.02	-.03 *
都市度(T1) (0:それ以外 1:三大都市圏)		.00	.01	.01	.00
中高一貫校(T1) (0:それ以外 1:中高一貫)		.01	-.02	.01	.01
高校の大学進学程度(T1) (1:その他の私大・短大等に多数進学 2:中堅国公立大、私大に多数進学 3:難関国公立大・私大に多数進学)		.01	-.02	.02	.02
【B：個人的要因（高校2年時）】					
部活動時間(T1) (0.5時間単位)			.04	.04	.01
授業以外の学習時間(T1) (0.5時間単位)			.00	.01	-.02
友だちと遊ぶ(T1) (0.5時間単位)			.01	.01	.01
友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNSなど(T1) (0.5時間単位)			-.04	-.04 *	.02
ゲームをする(T1) (0.5時間単位)			.00	.00	.02
読書をする(マンガ・雑誌を除く)(T1) (0.5時間単位)			.02	.02	.01
マンガ・雑誌を読む(T1) (0.5時間単位)			-.01	-.01	.00
学校行事に積極的に参加する(T1) (1-4点)			.03	.02	.01
SSH経験(T1) (0:それ以外 1:SSH受講＆満足)			.01	.01	-.01
自尊感情(T1) (1-4点)			.10 **	.11 **	.08 **
対人関係(T1) (1-2点)			.09 **	.08 **	.07 **
キャリア意識(T1) (1-4点)			.06 **	.05 **	-.03
他者理解力(T1) (1-5点)			.06 **	.05 *	.06 **
社会文化探究心(T1) (1-5点)			-.03	-.02	-.04 *
計画実行力(T1) (1-5点)			.28 **	.29 **	.24 **
コミュニケーション・リーダーシップ力(T1) (1-5点)			.04	.05 *	.01
【C：属性要因（大学入学時）】					
地域移動(T1.5) (0:移動なし 1:移動あり)				-.02	-.02
国公私立大学(T1.5) (0:私立大学 1:国公立大学)				-.06 **	-.03
大学偏差値(T1.5) (2:49以下 3:50-59 4:60-64 5:65以上)				-.09 **	-.07 **
学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)				.00	.04 *
学部学科（理科系ダミー）(T1.5)				.04	.04
学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)				.02	.01
学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)				.02	.01
学部学科（その他ダミー）(T1.5)				.03	.02
【D：個人的要因（大学1年時）】					
授業や実験に参加する(T2) (1時間単位)					.00
授業に関する勉強をする(T2) (1時間単位)					.05 **
自主的な勉強をする(T2) (1時間単位)					.03 *
友だちと遊ぶ(T2) (1時間単位)					.01
クラブサークル活動をする(T2) (1時間単位)					.08 **
コンパや懇親会に参加する(T2) (1時間単位)					.02
アルバイトをする(T2) (1時間単位)					.04 *
ボランティアなどをする(T2) (1時間単位)					.02
テレビを見る(T2) (1時間単位)					-.05 **
電話、LINE、メール、SNSをする(T2) (1時間単位)					-.02
インターネットサーフィンをする(T2) (1時間単位)					-.07 **
ゲームをする(T2) (1時間単位)					-.01
勉強のための本を読む(T2) (1時間単位)					.04 *
娯楽のための本（マンガ雑誌を除く）を読む(T2) (1時間単位)					-.03
マンガや雑誌を読む(T2) (1時間単位)					.00
新聞を読む(T2) (1時間単位)					.00
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					.01
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					.29 **
二つのライフ（T2) (1-3点)					.15 **
	R^2	.005	.211	.222	
	ΔR^2	.005	.205 **	.012 **	

* $p<.05$ **

ダイジェスト版報告冊子（pp.7-10）を見ながらお聴きください

（分析1）主な結果

●大学1年時の資質･能力は、高校2年時の同じ資質･能力（たとえば、高校2年時の**「他者理解力(T1)」**が大学1年時の**「他者理解力(T2)」**に）に影響を受けつつ、大学1年時の**「主体的な学習態度(T2)」**との関連で発達することが明らかとなった。

●全体的には、高校2年時や大学1年時での個人的要因が資質･能力の発達を多く説明するという結果であったが、以下の属性要因（個人･家庭･高校･大学入学時）はある程度影響を及ぼしていることが明らかとなった。

- ✓**他者理解力(T2) ＞ 学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)**
  （社会科学系の学生の他者理解力が高い）
- ✓**他者理解力(T2) ＞ ジェンダー(T1)**（女性の他者理解力が高い）
- ✓**社会文化探究心(T2) ＞ 学部学科（理科系ダミー）(T1.5)**（理科系の学生の社会文化探究心が低い）
- ✓**社会文化探究心(T2) ＞ 学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)**
  （6年制医療系の学生の社会文化探究心が低い）
- ✓**計画実行力(T2) ＞ 大学偏差値(T1.5)**（大学偏差値の低い学生の計画実行力が高い）
- ✓**計画実行力(T2) ＞ 学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)**（社会科学系の学生の計画実行力が高い）
- ✓**計画実行力(T2) ＞ ジェンダー(T1)**（女性の計画実行力が高い）
- ✓**計画実行力(T2) ＞ 社会階層(T1.5)**（社会階層の低い学生の計画実行力が高い）
- ✓**コミュニケーション･リーダーシップ力(T2) ＞ 都市度(T1)**
  （高校時に三大都市以外に住んでいた学生のコミュニケーション･リーダーシップ力が高い）
- ✓**コミュニケーション･リーダーシップ力(T2) ＞ 大学偏差値(T1.5)**
  （大学偏差値の低い学生のコミュニケーション･リーダーシップ力が高い）

【分析2】T1, T1.5, T2のどの変数が学習(T2)を説明しているか？

成績(T2)

説明変数	モデル	A	A+B	A+B+C	A+B+C+D
【A：属性要因（個人・家庭・高校）】					
ジェンダー(T1) (1:男 2:女)		.10 **	.09 **	.07 **	.08 **
社会階層(T1.5) (1:低 2:中 3:高)		-.01	-.02	-.02	-.02
都市度(T1) (0:それ以外 1:三大都市圏)		.02	.02	.02	.02
中高一貫校(T1) (0:それ以外 1:中高一貫)		-.04	-.05 *	-.04	-.03
高校の大学進学程度(T1) (1:その他の私大・短大等に多数進学 2:中堅国公立大、私大に多数進学 3:難関国公立大・私大に多数進学)		.00	-.01	.01	.02
【B：個人的要因（高校2年時）】					
部活動時間(T1) (0.5時間単位)			-.03	-.03	-.03
授業以外の学習時間(T1) (0.5時間単位)			.01	.01	-.02
友だちと遊ぶ(T1) (0.5時間単位)			-.02	-.02	-.01
友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNSなど(T1) (0.5時間単位)			-.06 **	-.07 **	-.01
ゲームをする(T1) (0.5時間単位)			.00	-.01	-.01
読書をする(マンガ・雑誌を除く)(T1) (0.5時間単位)			-.03	-.03	-.04 *
マンガ・雑誌を読む(T1) (0.5時間単位)			-.02	-.02	-.02
学校行事に積極的に参加する(T1) (1-4点)			-.01	-.01	-.01
SSH経験(T1) (0:それ以外 1:SSH受講＆満足)			-.02	-.02	-.03
自尊感情(T1) (1-4点)			.05 *	.06 **	.04
対人関係(T1) (1-2点)			.02	.02	.02
キャリア意識(T1) (1-4点)			.01	.00	-.03
他者理解力(T1) (1-5点)			.01	.01	.03
社会文化探究心(T1) (1-5点)			-.05 *	-.05 *	-.07 **
計画実行力(T1) (1-5点)			.13 **	.14 **	.08 **
コミュニケーション・リーダーシップ力(T1) (1-5点)			.02	.02	-.01
【C：属性要因（大学入学時）】					
地域移動(T1.5) (0:移動なし 1:移動あり)				.02	.02
国公私立大学(T1.5) (0:私立大学 1:国公立大学)				-.06 *	-.01
大学偏差値(T1.5) (2:49以下 3:50-59 4:60-64 5:65以上)				-.04	.01
学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)				-.06 *	-.02
学部学科（理科系ダミー）(T1.5)				-.02	-.01
学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)				.01	.00
学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)				.00	.01
学部学科（その他ダミー）(T1.5)				-.01	-.01
【D：個人的要因（大学1年時）】					
授業や実験に参加する(T2) (1時間単位)					-.01
授業に関する勉強をする(T2) (1時間単位)					.01
自主的な勉強をする(T2) (1時間単位)					.02
友だちと遊ぶ(T2) (1時間単位)					-.04
クラブサークル活動をする(T2) (1時間単位)					-.02
コンパや懇親会に参加する(T2) (1時間単位)					.01
アルバイトをする(T2) (1時間単位)					-.04
ボランティアなどをする(T2) (1時間単位)					.03
テレビを見る(T2) (1時間単位)					.04
電話、LINE、メール、SNSをする(T2) (1時間単位)					-.01
インターネットサーフィンをする(T2) (1時間単位)					-.03
ゲームをする(T2) (1時間単位)					.00
勉強のための本を読む(T2) (1時間単位)					.03
娯楽のための本（マンガ雑誌を除く）を読む(T2) (1時間単位)					
マンガや雑誌を読む(T2) (1時間単位)					
新聞を読む(T2) (1時間単位)					
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					-.01
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					.32 **
二つのライフ（T2) (1-3点)					.04 *
	R^2	.013	.052	.059	.175
	ΔR^2	.013 **	.039 **	.007 *	.116 **

* $p<.05$ ** $p<.01$

授業外学習時間(T2)

説明変数	モデル	A	A+B	A+B+C	A+B+C+D
【A：属性要因（個人・家庭・高校）】					
ジェンダー(T1) (1:男 2:女)		.00	-.01	.02	.02
社会階層(T1.5) (1:低 2:中 3:高)		.07 **	.06 **	.04 *	.03
都市度(T1) (0:それ以外 1:三大都市圏)		.03	.02	.01	.00
中高一貫校(T1) (0:それ以外 1:中高一貫)		-.03	-.05 **	-.06 **	-.04 *
高校の大学進学程度(T1) (1:その他の私大・短大等に多数進学 2:中堅国公立大、私大に多数進学 3:難関国公立大・私大に多数進学)		.04 *	.00	-.02	-.01
【B：個人的要因（高校2年時）】					
部活動時間(T1) (0.5時間単位)			-.03	-.03	-.02
授業以外の学習時間(T1) (0.5時間単位)			.12 **	.11 **	.08 **
友だちと遊ぶ(T1) (0.5時間単位)			.00	.01	-.02
友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNSなど(T1) (0.5時間単位)			-.08 **	-.08 **	-.03
ゲームをする(T1) (0.5時間単位)			-.03	-.04	-.03
読書をする(マンガ・雑誌を除く)(T1) (0.5時間単位)			.02	.02	.01
マンガ・雑誌を読む(T1) (0.5時間単位)			-.02	-.02	-.02
学校行事に積極的に参加する(T1) (1-4点)			.03	.02	-.03
SSH経験(T1) (0:それ以外 1:SSH受講＆満足)			.05 *	.03	.01
自尊感情(T1) (1-4点)			-.03	.01	-.02
対人関係(T1) (1-2点)			-.04 *	-.03	-.03
キャリア意識(T1) (1-4点)			.08 **	.07 **	.04
他者理解力(T1) (1-5点)			-.05 *	-.05 *	-.04 *
社会文化探究心(T1) (1-5点)			.02	.03	.00
計画実行力(T1) (1-5点)			.05 *	.05 *	.02
コミュニケーション・リーダーシップ力(T1) (1-5点)			.01	.01	-.01
【C：属性要因（大学入学時）】					
地域移動(T1.5) (0:移動なし 1:移動あり)				-.01	-.03
国公私立大学(T1.5) (0:私立大学 1:国公立大学)				-.02	.01
大学偏差値(T1.5) (2:49以下 3:50-59 4:60-64 5:65以上)				.05 *	.06 **
学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)				-.08 **	-.04
学部学科（理科系ダミー）(T1.5)				.14 **	.11 **
学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)				.03	.01
学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)				.05 **	.02
学部学科（その他ダミー）(T1.5)				.07 **	.05 **
【D：個人的要因（大学1年時）】					
授業や実験に参加する(T2) (1時間単位)					.19 **
授業に関する勉強をする(T2) (1時間単位)					–
自主的な勉強をする(T2) (1時間単位)					-.02
友だちと遊ぶ(T2) (1時間単位)					-.01
クラブサークル活動をする(T2) (1時間単位)					-.06 **
コンパや懇親会に参加する(T2) (1時間単位)					.01
アルバイトをする(T2) (1時間単位)					-.10 **
ボランティアなどをする(T2) (1時間単位)					-.02
テレビを見る(T2) (1時間単位)					-.03
電話、LINE、メール、SNSをする(T2) (1時間単位)					-.01
インターネットサーフィンをする(T2) (1時間単位)					-.03
ゲームをする(T2) (1時間単位)					.00
勉強のための本を読む(T2) (1時間単位)					.12 **
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					.02
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					.19 **
二つのライフ（T2) (1-3点)					.05 *
	R^2	.008	.066	.098	.216
	ΔR^2	.008 **	.058 **	.032 **	.118 **

* $p<.05$ ** $p<.01$

アクティブラーニング外化(T2)

説明変数	モデル	A	A+B	A+B+C	A+B+C+D
【A：属性要因（個人・家庭・高校）】					
ジェンダー(T1) (1:男 2:女)		-.06 **	-.06 **	-.09 **	-.09 **
社会階層(T1.5) (1:低 2:中 3:高)		.02	.02	.03	.02
都市度(T1) (0:それ以外 1:三大都市圏)		-.04	-.04	-.03	-.03
中高一貫校(T1) (0:それ以外 1:中高一貫)		.05 **	.02	.03	.04 *
高校の大学進学程度(T1) (1:その他の私大・短大等に多数進学 2:中堅国公立大、私大に多数進学 3:難関国公立大・私大に多数進学)		.01	-.01	.01	.02
【B：個人的要因（高校2年時）】					
部活動時間(T1) (0.5時間単位)			.04	.04	.03
授業以外の学習時間(T1) (0.5時間単位)			.01	.02	-.01
友だちと遊ぶ(T1) (0.5時間単位)			.03	.03	.04 *
友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNSなど(T1) (0.5時間単位)			-.03	-.03	-.02
ゲームをする(T1) (0.5時間単位)			.01	.00	.01
読書をする(マンガ・雑誌を除く)(T1) (0.5時間単位)			.05 **	.05 **	.04 *
マンガ・雑誌を読む(T1) (0.5時間単位)			.03	.03	.03
学校行事に積極的に参加する(T1) (1-4点)			.02	.01	.01
SSH経験(T1) (0:それ以外 1:SSH受講＆満足)			.00	.00	-.01
自尊感情(T1) (1-4点)			.01	.02	.01
対人関係(T1) (1-2点)			.08 **	.07 **	.07 **
キャリア意識(T1) (1-4点)			.09 **	.08 **	.05 *
他者理解力(T1) (1-5点)			-.03	-.03	-.03
社会文化探究心(T1) (1-5点)			.05 *	.05 *	.03
計画実行力(T1) (1-5点)			-.04	-.03	-.05 *
コミュニケーション・リーダーシップ力(T1) (1-5点)			.25 **	.25 **	.22 **
【C：属性要因（大学入学時）】					
地域移動(T1.5) (0:移動なし 1:移動あり)				-.01	-.02
国公私立大学(T1.5) (0:私立大学 1:国公立大学)				.00	-.03
大学偏差値(T1.5) (2:49以下 3:50-59 4:60-64 5:65以上)				-.08 **	-.07 **
学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)				.00	-.03
学部学科（理科系ダミー）(T1.5)				-.06 *	-.07 **
学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)				-.03	-.02
学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)				.05 *	.05 *
学部学科（その他ダミー）(T1.5)				-.01	-.01
【D：個人的要因（大学1年時）】					
授業や実験に参加する(T2) (1時間単位)					.02
授業に関する勉強をする(T2) (1時間単位)					.06 **
自主的な勉強をする(T2) (1時間単位)					-.01
友だちと遊ぶ(T2) (1時間単位)					.02
クラブサークル活動をする(T2) (1時間単位)					.02
コンパや懇親会に参加する(T2) (1時間単位)					.00
アルバイトをする(T2) (1時間単位)					.02
ボランティアなどをする(T2) (1時間単位)					.03
テレビを見る(T2) (1時間単位)					-.02
電話、LINE、メール、SNSをする(T2) (1時間単位)					.05 **
インターネットサーフィンをする(T2) (1時間単位)					.04 *
ゲームをする(T2) (1時間単位)					.00
勉強のための本を読む(T2) (1時間単位)					.04
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					-.04
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					.22 **
二つのライフ（T2) (1-3点)					.05 *
	R^2	.009	.138	.148	.211
	ΔR^2	.009 **	.129 **	.010 **	.064 **

* $p<.05$ ** $p<.01$

主体的な学習態度(T2)

説明変数	モデル	A	A+B	A+B+C	A+B+C+D
【A：属性要因（個人・家庭・高校）】					
ジェンダー(T1) (1:男 2:女)		.03	.03	.00	.04
社会階層(T1.5) (1:低 2:中 3:高)		.03	.01	.02	.01
都市度(T1) (0:それ以外 1:三大都市圏)		.01	.01	.01	.01
中高一貫校(T1) (0:それ以外 1:中高一貫)		-.03	-.06 **	-.03	-.02
高校の大学進学程度(T1) (1:その他の私大・短大等に多数進学 2:中堅国公立大、私大に多数進学 3:難関国公立大・私大に多数進学)		-.02	-.07 **	-.01	-.01
【B：個人的要因（高校2年時）】					
部活動時間(T1) (0.5時間単位)			.02	.02	.03
授業以外の学習時間(T1) (0.5時間単位)			.06 **	.07 **	.05 *
友だちと遊ぶ(T1) (0.5時間単位)			-.05 *	-.05 *	-.05 *
友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNSなど(T1) (0.5時間単位)			-.12 **	-.14 **	-.06 **
ゲームをする(T1) (0.5時間単位)			.00	-.01	.00
読書をする(マンガ・雑誌を除く)(T1) (0.5時間単位)			.04 *	.04	.01
マンガ・雑誌を読む(T1) (0.5時間単位)			-.01	-.02	-.02
学校行事に積極的に参加する(T1) (1-4点)			.01	.00	.02
SSH経験(T1) (0:それ以外 1:SSH受講＆満足)			.02	.02	.01
自尊感情(T1) (1-4点)			.05 *	.06 **	.03
対人関係(T1) (1-2点)			.00	-.02	-.01
キャリア意識(T1) (1-4点)			.07 **	.06 **	.01
他者理解力(T1) (1-5点)			.03	.01	.02
社会文化探究心(T1) (1-5点)			.06 **	.07 **	.04 *
計画実行力(T1) (1-5点)			.12 **	.14 **	.13 **
コミュニケーション・リーダーシップ力(T1) (1-5点)			.08 **	.09 **	.09 **
【C：属性要因（大学入学時）】					
地域移動(T1.5) (0:移動なし 1:移動あり)				.01	.02
国公私立大学(T1.5) (0:私立大学 1:国公立大学)				-.11 **	-.08 **
大学偏差値(T1.5) (2:49以下 3:50-59 4:60-64 5:65以上)				-.10 **	-.07 **
学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)				-.09 **	-.06 **
学部学科（理科系ダミー）(T1.5)				.01	.01
学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)				.01	-.01
学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)				-.02	-.04
学部学科（その他ダミー）(T1.5)				.02	.02
【D：個人的要因（大学1年時）】					
授業や実験に参加する(T2) (1時間単位)					.06 **
授業に関する勉強をする(T2) (1時間単位)					–
自主的な勉強をする(T2) (1時間単位)					-.03
友だちと遊ぶ(T2) (1時間単位)					-.06 **
クラブサークル活動をする(T2) (1時間単位)					-.07 **
コンパや懇親会に参加する(T2) (1時間単位)					-.03
アルバイトをする(T2) (1時間単位)					-.09 **
ボランティアなどをする(T2) (1時間単位)					.02
テレビを見る(T2) (1時間単位)					.01
電話、LINE、メール、SNSをする(T2) (1時間単位)					-.11 **
インターネットサーフィンをする(T2) (1時間単位)					-.02
ゲームをする(T2) (1時間単位)					-.01
勉強のための本を読む(T2) (1時間単位)					.12 **
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					.03
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					-.03
二つのライフ（T2) (1-3点)					.05 **
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					.00
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					–
二つのライフ（T2) (1-3点)					.15 **
	R^2	.003	.122	.148	
	ΔR^2	.003	.119 **	.027 **	

* $p<.05$ **

ダイジェスト版報告冊子（pp.12-15）を見ながらお聴きください

（分析2）主な結果

●「**成績(T2)**」「**授業外学習時間(T2)**」は、同じ大学1年時の「**主体的な学習態度(T2)**」との関連で大きく説明されていた。「**アクティブラーニング外化(T2)**」にも同じ傾向が認められたが、「アクティブラーニング外化(T2)」には高校2年時の「**コミュニケーション・リーダーシップ力(T1)**」の影響も大きく受けていた。

●大学1年時の資質・能力（分析1を参照）や分析2の学習に大きな関連を示した「**主体的な学習態度(T2)**」は、高校2年時の「**計画実行力(T1)**」に影響を受けながら、大学1年時の「**二つのライフ(T2)**」や「**勉強のための本を読む(T2)**」との関連で説明されることが明らかとなった。

●全体的には、高校2年時や大学1年時の個人的要因が大学1年時の学習をより説明するという結果であったが、以下の属性要因（個人・家庭・高校・大学入学時）は大学1年時の学習に影響を及ぼしていることが明らかとなった。

✓**成績(T2) ＞ ジェンダー(T1)**（女性のほうが成績が良い）
✓**授業外学習時間(T2) ＞ 学部学科（理科系ダミー）(T1.5)**
（理科系の学生の授業外学習時間が長い）
✓**授業外学習時間(T2) ＞ 大学偏差値(T1.5)**（偏差値の高い大学の学生の授業外学習時間が長い）
✓**授業外学習時間(T2) ＞ 学部学科（その他ダミー）(T1.5)**
（その他の学部学科の学生の授業外学習時間が長い）
✓**授業外学習時間(T2) ＞ 中高一貫校(T1)**（中高一貫校出身の学生の授業外学習時間が短い）
✓**アクティブラーニング外化(T2) ＞ ジェンダー(T1)**（男性のアクティブラーニング外化が高い）
✓**アクティブラーニング外化(T2) ＞ 大学偏差値(T1.5)**
（偏差値の低い学生のアクティブラーニング外化が高い）
✓**アクティブラーニング外化(T2) ＞ 学部学科（理科系ダミー）(T1.5)**
（理科系の学生のアクティブラーニング外化が低い）
✓**アクティブラーニング外化(T2) ＞ 学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)**
（6年制医療系の学生のアクティブラーニング外化が高い）
✓**アクティブラーニング外化(T2) ＞ 中高一貫校(T1)**
（中高一貫校出身の学生のアクティブラーニング外化が高い）
✓**主体的な学習態度(T2) ＞ 国公私立大学(T1.5)**（私立大学の学生の主体的な学習態度が高い）
✓**主体的な学習態度(T2) ＞ 大学偏差値(T1.5)**
（偏差値の低い大学の学生の主体的な学習態度が高い）
✓**主体的な学習態度(T2) ＞ 学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)**
（社会科学系の学生の主体的な学習態度が低い）

【分析3】T1, T1.5, T2のどの変数が二つのライフ(T2)を説明しているか？

二つのライフ(T2)

説明変数	モデル	A	A+B	A+B+C	A+B+C+D
【A：属性要因（個人・家庭・高校）】					
ジェンダー(T1) (1:男 2:女)		.02	.01	-.04 *	-.03
社会階層(T1.5) (1:低 2:中 3:高)		.03	.02	.03	.03
都市度(T1) (0:それ以外 1:三大都市圏)		-.01	-.01	-.01	-.01
中高一貫校(T1) (0:それ以外 1:中高一貫)		.01	-.04	-.03	-.02
高校の大学進学程度(T1) (1:その他の私大・短大等に多数進学 2:中堅国公立大、私大に多数進学 3:難関国公立大・私大に多数進学)		-.02	-.05 **	-.01	-.01
【B：個人的要因（高校2年時）】					
部活動時間(T1) (0.5時間単位)			.02	.02	.03
授業以外の学習時間(T1) (0.5時間単位)			.00	.01	-.01
友だちと遊ぶ(T1) (0.5時間単位)			.03	.03	.03
友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNSなど(T1) (0.5時間単位)			-.03	-.03	.00
ゲームをする(T1) (0.5時間単位)			-.03	-.04	-.01
読書をする(マンガ・雑誌を除く)(T1) (0.5時間単位)			.03	.03	.02
マンガ・雑誌を読む(T1) (0.5時間単位)			-.02	-.02	-.02
学校行事に積極的に参加する(T1) (1-4点)			-.02	-.02	-.02
SSH経験(T1) (0:それ以外 1:SSH受講&満足)			.04 *	.04 *	.03
自尊感情(T1) (1-4点)			.04 *	.05 **	.05 *
対人関係(T1) (1-2点)			.06 **	.04	.03
キャリア意識(T1) (1-4点)			.33 **	.30 **	.29 **
他者理解力(T1) (1-5点)			-.01	-.02	-.01
社会文化探究心(T1) (1-5点)			-.01	.01	-.01
計画実行力(T1) (1-5点)			.00	.01	.01
コミュニケーション・リーダーシップ力(T1) (1-5点)			.06 *	.07 **	.06 **
【C：属性要因（大学入学時）】					
地域移動(T1.5) (0:移動なし 1:移動あり)				.00	.01
国公私立大学(T1.5) (0:私立大学 1:国公立大学)				-.04 *	-.02
大学偏差値(T1.5) (2:49以下 3:50-59 4:60-64 5:65以上)				-.09 **	-.09 **
学部学科（社会科学系ダミー）(T1.5)				-.04	-.03
学部学科（理科系ダミー）(T1.5)				-.06 *	-.06 *
学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)				.09 **	.09 **
学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)				.09 **	.10 **
学部学科（その他ダミー）(T1.5)				.00	.01
【D：個人的要因（大学1年時）】					
授業や実験に参加する(T2) (1時間単位)					.06 **
授業に関する勉強をする(T2) (1時間単位)					–
自主的な勉強をする(T2) (1時間単位)					.09 **
友だちと遊ぶ(T2) (1時間単位)					.01
クラブサークル活動をする(T2) (1時間単位)					-.01
コンパや懇親会に参加する(T2) (1時間単位)					.02
アルバイトをする(T2) (1時間単位)					.01
ボランティアなどをする(T2) (1時間単位)					.02
テレビを見る(T2) (1時間単位)					.01
電話、LINE、メール、SNSをする(T2) (1時間単位)					-.07 **
インターネットサーフィンをする(T2) (1時間単位)					-.01
ゲームをする(T2) (1時間単位)					-.07 **
勉強のための本を読む(T2) (1時間単位)					.08 **
娯楽のための本（マンガ雑誌を除く）を読む(T2) (1時間単位)					.01
マンガや雑誌を読む(T2) (1時間単位)					-.03
新聞を読む(T2) (1時間単位)					.00
通学にかかる時間(T2) (1時間単位)					-.03
主体的な学習態度（T2) (1-5点)					–
二つのライフ（T2) (1-3点)					–
	R^2	.001	.152	.182	.215
	ΔR^2	.001	.151 **	.030 **	.033 **

* $p<.05$ ** $p<.01$

（キャリア形成）

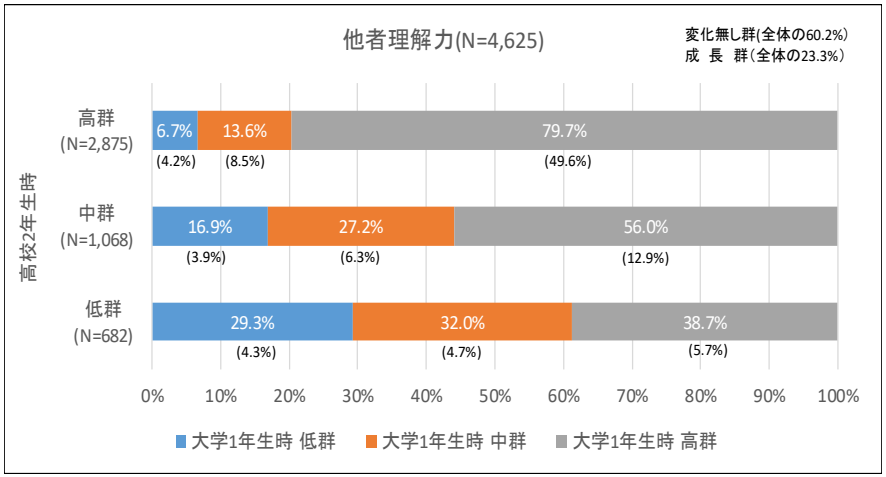
●**二つのライフ(T2)**は、基本的に高校2年時の**「キャリア意識(T1)」**に影響を受けて発達することが明らかとなった。

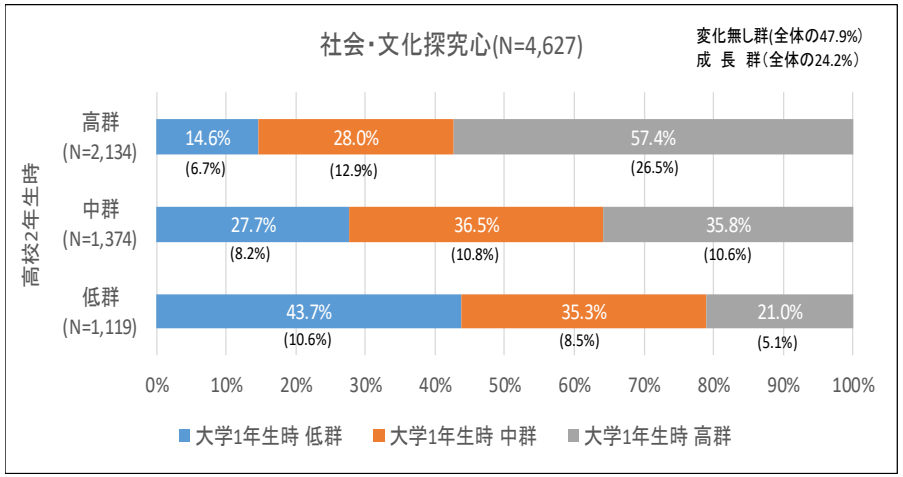
●**二つのライフ(T2)**は、大学2年時の個人的要因（主に**「キャリア意識(T1)」**）に大きく影響を受けるが、他方で大きくはないながらも、以下の属性要因（個人・家庭・高校・大学入学時）は二つのライフ(T2)に影響を及ぼしていることが明らかとなった。

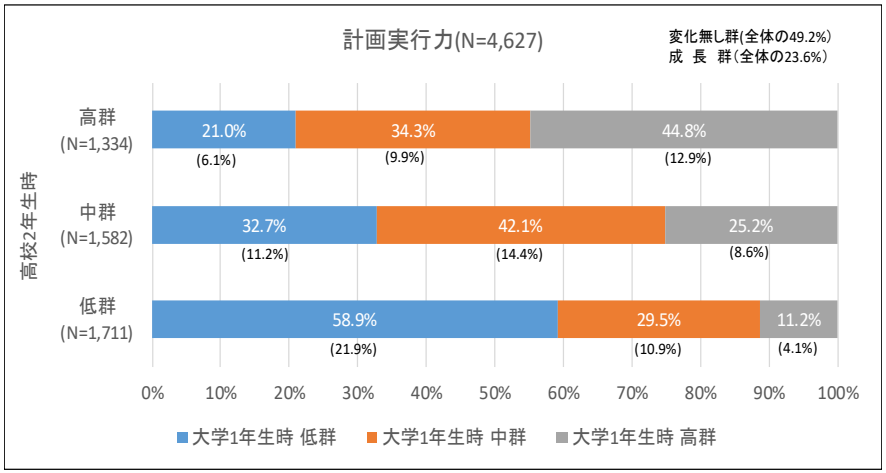
- ✓**二つのライフ(T2) ＞ 学部学科（6年制医療系ダミー）(T1.5)**
  （6年制医療系の学生の二つのライフが<u>良好</u>である）
- ✓**二つのライフ(T2) ＞ 学部学科（4年制医療系ダミー）(T1.5)**
  （4年制医療系の学生の二つのライフが<u>良好</u>である）
- ✓**二つのライフ(T2) ＞ 大学偏差値(T1.5)**
  （偏差値の低い大学の学生の二つのライフが<u>良好</u>である）
- ✓**二つのライフ(T2) ＞ 学部学科（理科系ダミー）(T1.5)**
  （理科系の学生の二つのライフが<u>弱い</u>）

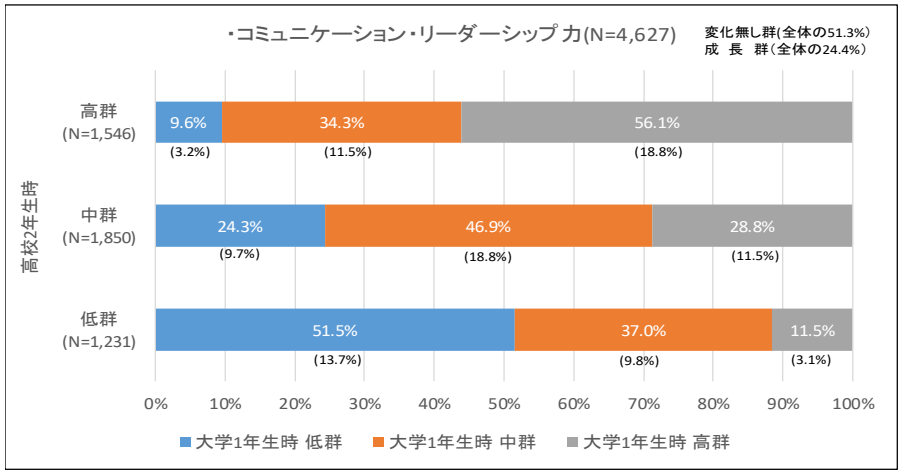
ダイジェスト版報告冊子（p.17）を見ながらお聴きください

【分析4-1】半数の者は高校から大学にかけて資質・能力は変わらない





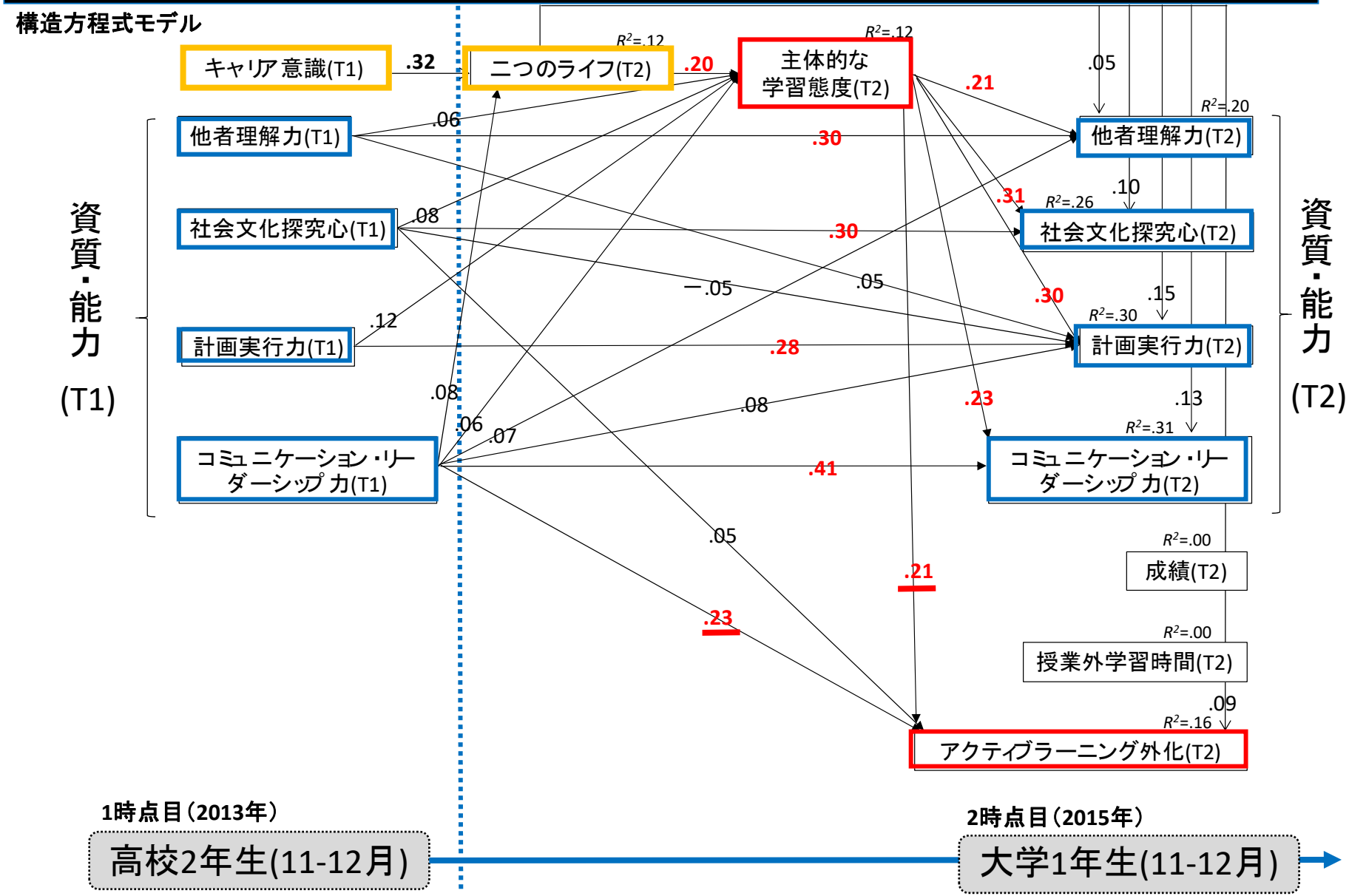




「変化無し群」を高→高、中→中、低→低とすると、変化無し群は全体の47-60%であった。これより、高校2年生の時の資質・能力は変化しにくいことが明らかとなった。また、「成長群」を低→中or高、中→高とすると、成長群は全体の23-24%であった。

ダイジェスト版報告冊子（p.19）を見ながらお聴きください

（分析4-2）資質･能力(T2)、学習(T2)を説明する変数は結局何か？



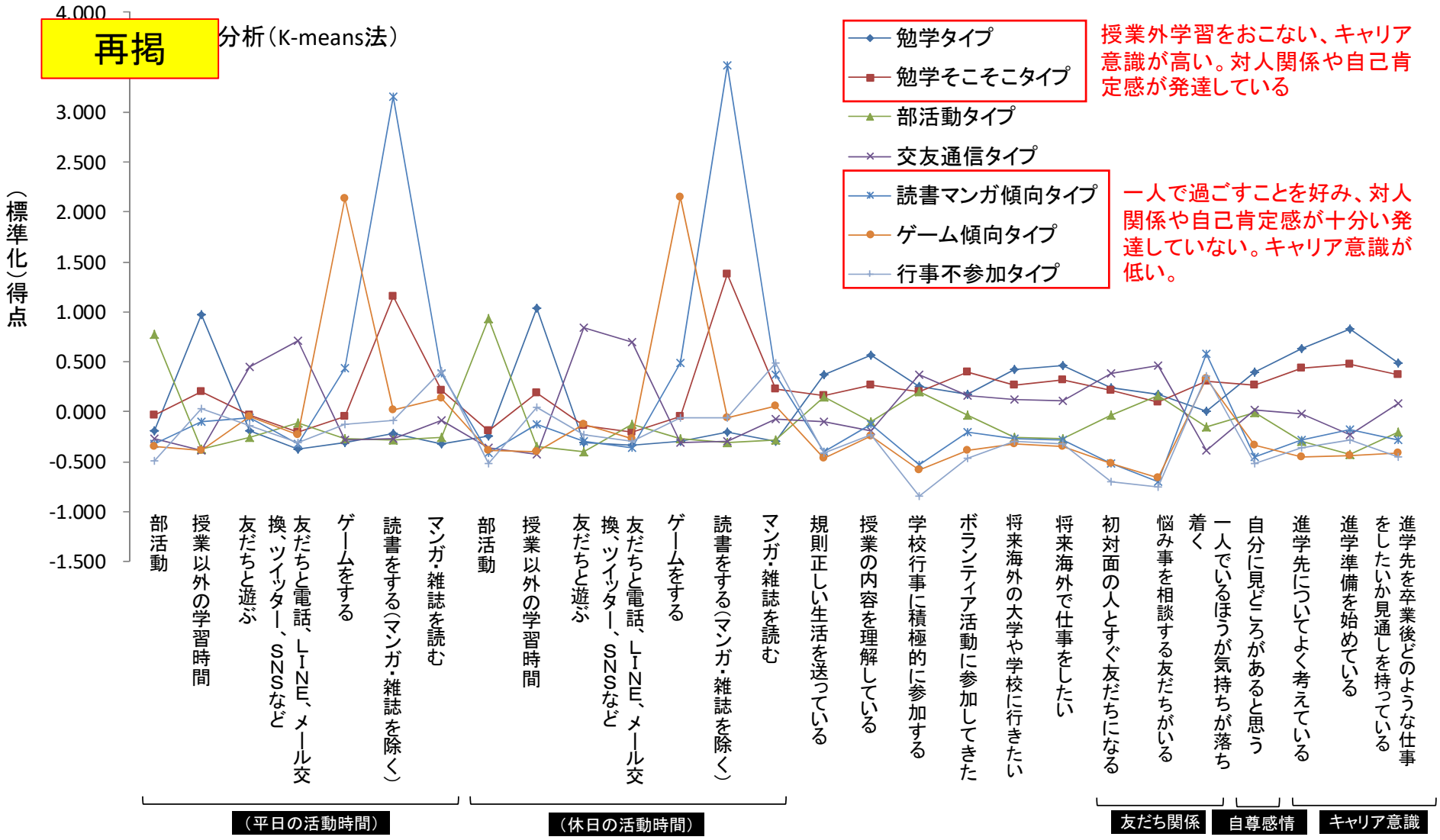
ダイジェスト版報告冊子（p.20）を見ながらお聴きください

CONTENTS

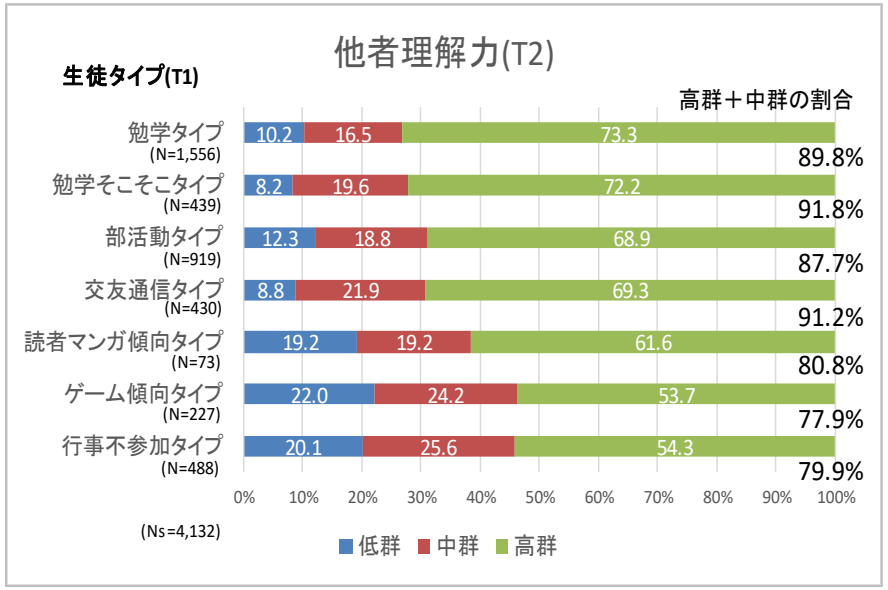
①大学生調査･トランジション調査の前史
②1時点目調査の成果
③2時点目調査の成果
④1時点目（生徒タイプ）との関連

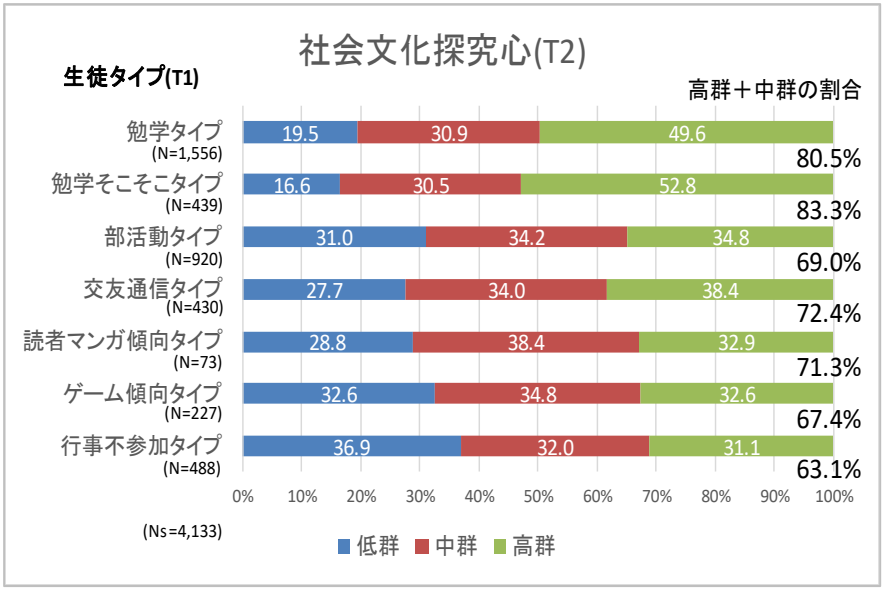
*

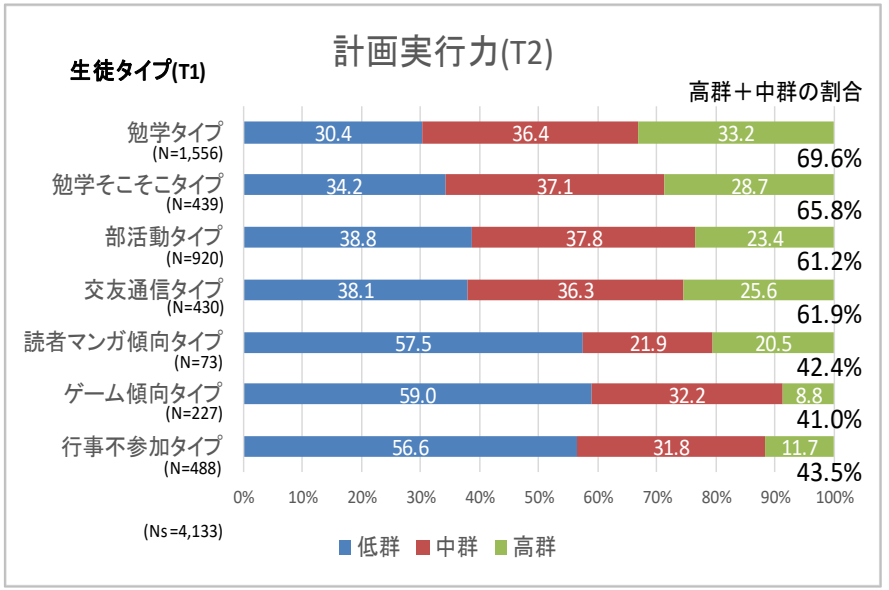
7つの生徒タイプが多様な高校生の見方を提供する

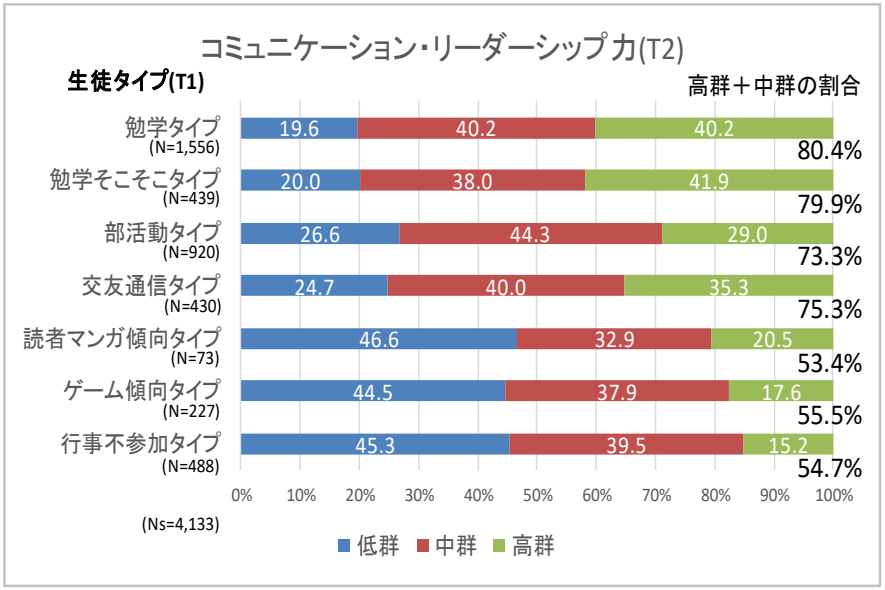


（分析5）高校2年時の生徒タイプ(T1)との関連

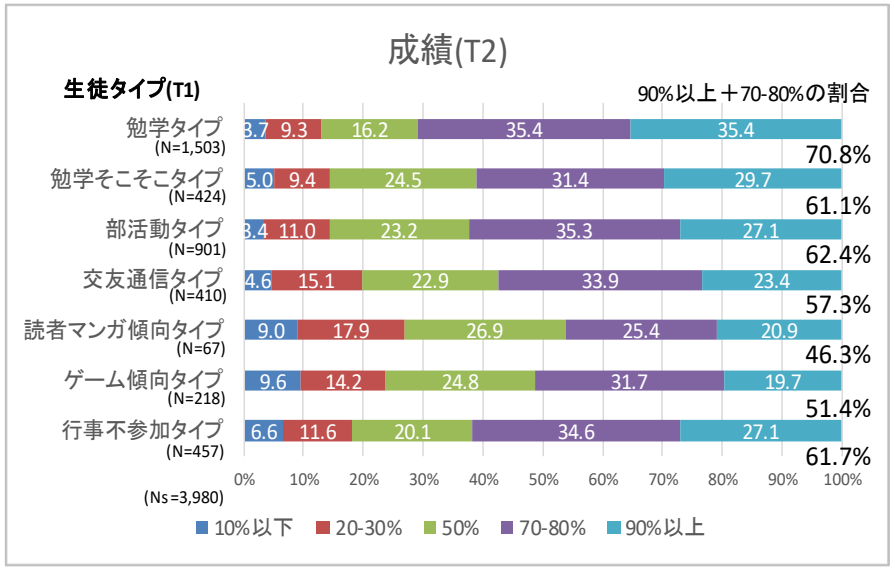


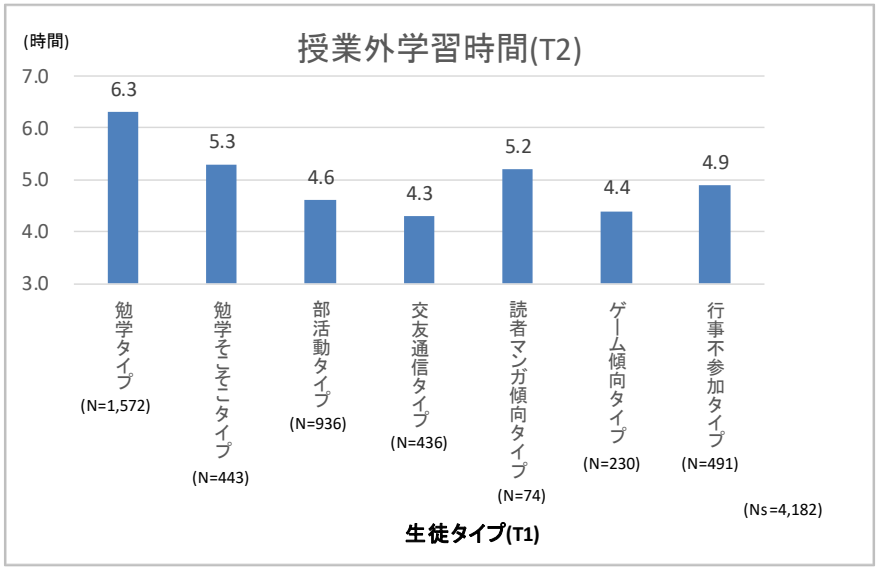


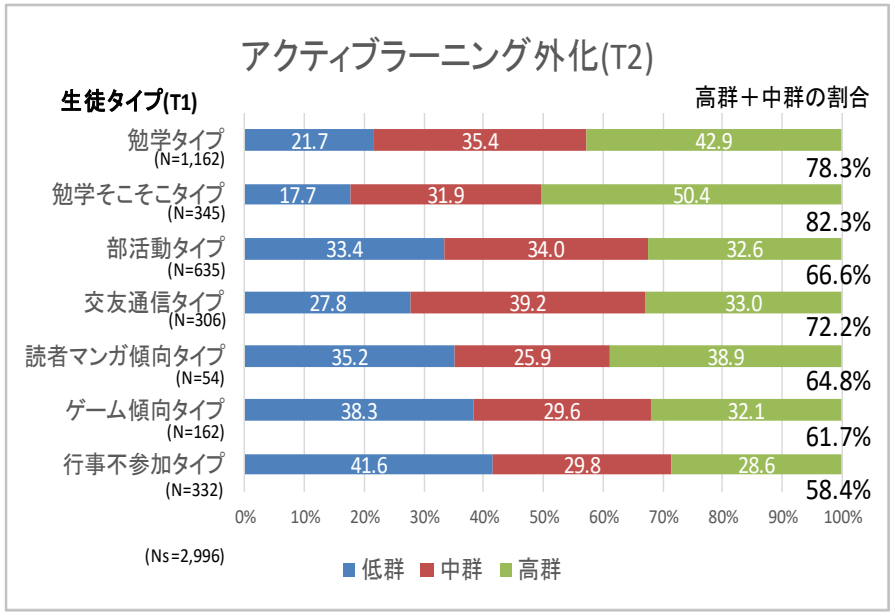


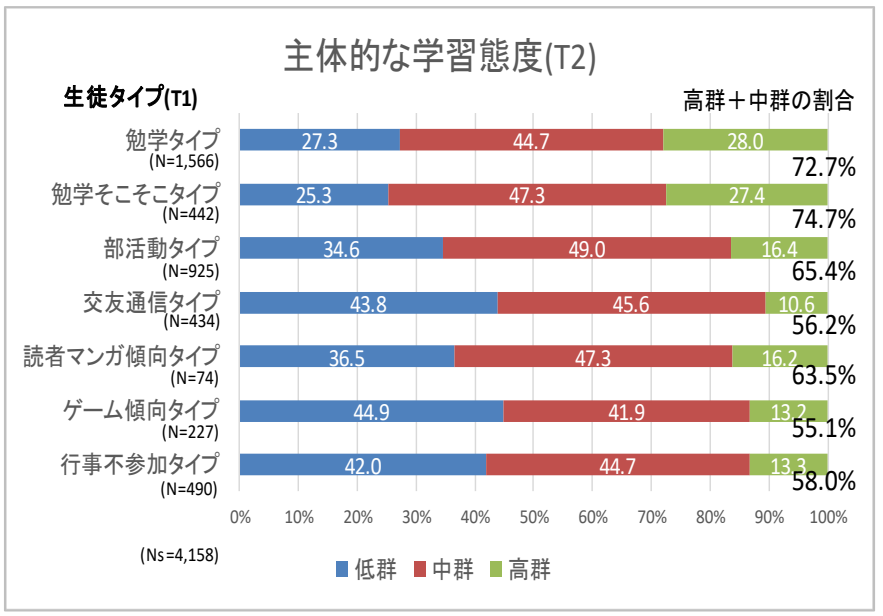


ダイジェスト版報告冊子（p.22）を見ながらお聴きください

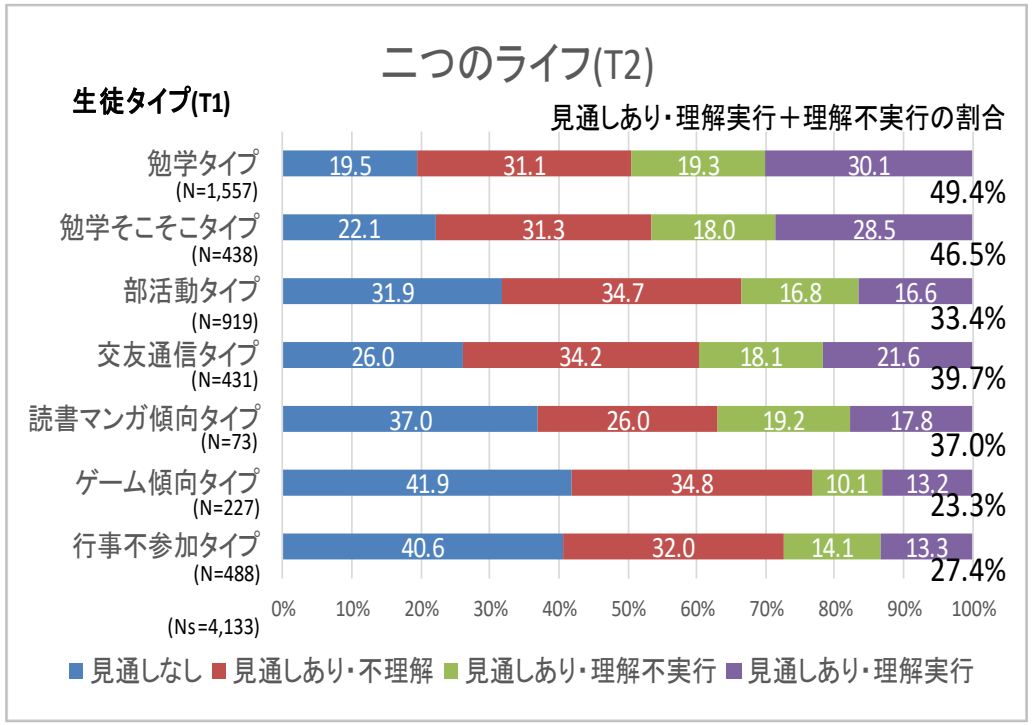








ダイジェスト版報告冊子（p.23）を見ながらお聴きください



ダイジェスト版報告冊子（p.24）を見ながらお聴きください

（分析5）主な結果

●高校2年時の生徒タイプ（T1)は大学1年時の資質･能力(T2)に影響を及ぼしていた。概して**“勉学タイプ”“勉学そこそこタイプ”**の資質･能力(T2)は高く、“読書マンガ傾向タイプ”“ゲーム傾向タイプ”“行事不参加タイプ”の資質･能力(T2)は低かった。

●大学1年時の**「計画実行力(T2)」「コミュニケーション･リーダーシップ力(T2)」**は発達が難しく、ここに生徒タイプ(T1)による差が表れると考えられた。

●高校2年時の生徒タイプ(T1)は、成績(T2)、授業外学習時間(T2)、アクティブラーニング外化(T2)、主体的な学習態度(T2)すべての学習変数に影響を及ぼしていた。概して、**“勉学タイプ”“勉学そこそこタイプ”**の学習は他の生徒タイプ(T1)に比べて良好であった。

●高校2年時の生徒タイプ(T1)は、キャリア形成としての二つのライフ(T2)に影響を及ぼしていた。上の結果と同様に、**“勉学タイプ”“勉学そこそこタイプ”**の二つのライフ(T2)は他の生徒タイプに比べて良好であった。

報告書で示す主な結果

ダイジェスト版報告冊子（p.3）を見ながらお聴きください

- 資質･能力は、高校2年時から大学1年時にかけて変化しない者が47～60%見られた。成長した者はわずか23～24%に過ぎなかった。
- 大学1年時の資質･能力の維持あるいは発達に、大学1年時に「主体的な学習態度」が影響を及ぼしている。
- 大学1年時の資質･能力の発達をはじめ、学びと成長を促進する「主体的な学習態度」は、高校2年時のキャリア意識、ひいては大学1年時の二つのライフに影響を受けていた。この結果は、大学生の学びと成長が、高校生時のキャリア意識を大学生になって持続･発展させ、それに影響を受けて促されることを示唆している。

報告書で示す主な結果

ダイジェスト版報告冊子（p.3）を見ながらお聴きください

- 資質・能力や学習等は、学習や行動、経験等の個人的要因により大きく説明されていた。しかしながら、大きくはないながらも、各変数はとくにジェンダーや入学する大学の偏差値、学部学科などの属性変数にある程度影響を受けていた。

- 大学偏差値の高い学生の授業外学習時間は長かったが、資質・能力の一部やアクティブラーニング、キャリア形成などの昨今の施策に関わる変数は、偏差値の低い学生のほうが得点が高かった。

- 高校2年時の生徒タイプが概して、大学1年時の資質・能力、学習、キャリア形成に大きな影響を及ぼしていた。生徒タイプは、高校2年時の資質・能力のもととなる活動・態度変数から成り立っており、高校の教育実践の参考になると考えられてきたものである。

ご清聴有り難うございました

*

興味があればお読みください

溝上慎一 (2014). アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換　東信堂

アクティブラーニングを理論的・実践的に包括的に概説した著書。
第1章：アクティブラーニングとは　第2章：なぜアクティブラーニングか（教えるから学ぶへ、情報・知識リテラシー）　第3章：さまざまなアクティブラーニング型授業（ピアインストラクション、LTD話し合い学習法、PBLなど）　第4章：アクティブラーニング型授業の質を高めるための工夫（ディープ・アクティブラーニング、授業外学習、逆向き設計、反転授業）　第5章　揺れる教授学習観（ラーニングピラミッドの功罪など）

溝上慎一監修　（2016年3月新刊）『アクティブラーニング・シリーズ全7巻』（東信堂）

・第1巻　アクティブラーニングの技法・授業デザイン
（安永悟・関田一彦・水野正朗編）
・第2巻　アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習
（溝上慎一・成田秀夫編）
・第3巻　アクティブラーニングの評価（松下佳代・石井英真編）
・第4巻　高等学校におけるアクティブラーニング：理論編（溝上慎一編）
・第5巻　高等学校におけるアクティブラーニング：事例編（溝上慎一編）
・第6巻　アクティブラーニングをどう始めるか（成田秀夫著）
・第7巻　失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング（亀倉正彦著）

各巻の詳細は[こちら（http://smizok.net/ALflier03-2016.pdf）](http://smizok.net/ALflier03-2016.pdf)
（このチラシにある申込書を使えば、全巻セット11,800円が10,000円で購入できます）

チューリップMLを作りました

中学高校に関するイベントや研究会の案内を受け取る、あるいは自由に投稿できるチューリップMLを作りました。
全国の中学高校関係者に配信されます。
情報を欲しい方、発信したい方はメンバー登録の上、どうぞご利用下さい。　　http://kyoto-u.s-coop.net/tulip/index.html

桐蔭学園の「授業見学」のご案内

◆桐蔭学園はAL型授業向上を目指して、外部からの授業見学をいつでも受け付けています。見学したい方は下記にご連絡下さい。
担当：　佐藤透（satohru@toin.ac.jp）

講師プロフィール

http://smizok.net/

1970年1月生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手、2000年講師、2003年京都大学高等教育研究開発推進センター准教授。2014年より教授（現在に至る）。大学院教育学研究科兼任。教育アセスメント室長。京都大学博士（教育学）。

日本青年心理学会常任理事、大学教育学会常任理事、『青年心理学研究』編集委員、『大学教育学会誌』編集委員、*"Journal of Adolescence"* Editorial Board委員、公益財団法人電通育英会大学生調査アドバイザー、学校法人桐蔭学園教育顧問ほか、大学のAP委員、高校のSGH/SSH指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、青年心理学（現代青年期、自己・アイデンティティ形成、自己の分権化）と高等教育と高大接続（学習と成長パラダイム、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジションなど）。著書に『自己形成の心理学－他者の森をかけ抜けて自己になる』（2008世界思想社、単著）、『現代青年期の心理学－適応から自己形成の時代へ－』（2010有斐閣選書、単著）、『大学生の学び・入門－大学での勉強は役に立つ！－』（2006有斐閣アルマ、単著）、『高校・大学から仕事へのトランジション－変容する能力・アイデンティティと教育－』（2014ナカニシヤ出版、編著）、『活躍する組織人の探究－大学から企業へのトランジション－』（2014東京大学出版会、編著）、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）など多数。